



米合衆國貨幣委員報告書

第三号ノ一





ヨリ及ヒ貨幣ノ磨滅失亡ニヨリテ消費シタル銀ノ

七十五年ニ至ル迄前八年間ニ大英ニ輸入シタル銀ハ  
其輸出ニ超過スルヲ四千四百三十七万九千五百弗ナリ之ヲ平  
均シテ計算スレバ各年輸入ノ超過スルヲ五百五十四万七千四  
百三十七弗ナリ英國銀額取調委員以テ此ノ五百五十四万  
七千四百三十七弗ハ大英ニ於テ年々消費スル銀高ヲ表スト然  
レモ此委員ハ此ノ輸出ニ超過セル輸入ノ総額ニ加フルニ其自  
國ノ鑛坑ヨリ産スル銀額ヲ加ヘザル可ラザルヲ又之レヨリ大  
ナル銀額即チ年々他ノ鑛質ト混和セル銀塊及ヒ鉛ヲ英國ニ輸  
入シ之レヨリ分拆シ得ル所ノ銀額ヲ加ヘザル可ラザルヲ又漏  
シテリソルヘクトルヘイガ英國銀額取調委員ニ呈シタル書ニ  
ヨレバ其他ノ混鑛及ヒ鉛ヨリ分拆シ得ル所ノ銀價ハ一百万磅

大正十一年四月  
島田一郎譯

即チ五百万弗ニ當ルト然レモ斯ノ如クノ大額ニ至リシハ持ニ  
近年ノ事ナリ其故ハ鉛ヨリ銀ヲ分拆シ得ルノ術大ニ進歩シタ  
ルニヨル者ニシテ既ニ一千八百六十五年ニ於テハ此額ノ五分  
一ヨリ寡カリキエル子ストセイドハエールハントガ著セル鐘  
物統計編ヲ引キ英國ノ銀山ヨリ年々産スル銀額ヲ計算シテ十  
四万磅即チ七十万弗ヨリ十六万磅即チ八十万弗ニ至ルトナシ  
且ツ云フ此産出ノ年額及ヒ英國鑛物分拆場ヨリ得ル所ノ年額  
ヲ合セテ一百万磅ニ減セスト

英國銀額取調委員ハ唯五百五十四万七千四百三十七弗ヲ以テ  
計算ヲ立テ其五分ノ二ヲ以テ銀貨ノ鑄造ニ供シ其五分ノ三ヲ  
以テ銀板及ヒ工藝ノ用ニ充ツルト豫算シタリ若シ此計算ヲシ  
テ過小ナル勿ラシメバ今ヲ距ルテ幾ント二十年即チ一千八  
百三十一年ニ當リジャコブが大英ニ於テハ八十二万零五百二

三

十一磅即チ四百万弗ヲ銀板ト工藝トニ用ユル算定シタルハ過  
大ナリトセザル可ラズ然レモ仮設大英ノ銀ヲ消費スル年額ヲ  
シテ真ニ五百五十四万七千四百三十七弗ヨリ多ラザラシメバ  
大英ノ人口ヨリ多キヲ三倍四分ノ三ナル日耳曼佛蘭西及ヒ米  
ノ合衆國ニ在テハ同一ノ比例ニ於テ二千零八十万零二千八百  
八十九弗ヲ消費ス可キナリ

抑々日耳曼及ヒ合衆國ヲ大英ト同一ノ比例ニテ推スハ甚ダ過  
小ノ計算ニシテ適中スル者ニアラス其貨幣鑄造ニ消費スル丈  
ケニ就テ美スルニ現時ニ在テハ甚ダ英國ノ鑄造高ニ超過ス何  
シトナレバ此等ノ回々ニ於テ銀貨ヲ甚ダ多ク流通使用スルガ  
故ナリ即チ合衆國ハ多キヲ四倍迄ニ至ラズト虫佛蘭西ハ四倍  
ヲ下ヒ日耳曼ハ四倍ヨリ多シ而シテ其銀位ノ完ク定マルニ至  
ル迄ハ日耳曼ハ依然トシテ此姿ニ引続クナルヘシ

將來ノ推測ヲ佛國ハ二重本位（按）一重本位トハ金貨銀貨ヲ同テ  
視シテ一重本位トハ金貨トスルヲ云察止シ合衆國ハ二重本位ヲ復行セズ日耳曼ハ其金貨政畧ヲ回  
執スト斯ノ若ク銀塊ノ用最モ少カル可キ豫美ヲ為スモ此等ノ  
諸國ハ國人一人毎ニ大英ノ如ク許多ノ補助銀貨（按）補助銀貨ト  
ハ金貨ヲ本位  
トナシ銀貨ヲ副  
トシテ有セガル  
可ラザルナリ又銀板及ヒ工藝  
ニ用ユル者ハ日耳曼佛蘭西ニ於テ其國人毎ニ少クトモ大英ニ  
同キ額ヲ用ユルノ實證アリ而シテ我合衆國ニ於テハ奢遊ニ耽  
ルノ氣象更ニ廣ク且ツ普キヲ以テ此ノ用ノ佛日ヨリ大ナルヤ  
疑ヲ容レザルナリ

通レテ之ヲ論スルニ仮設合衆國二重本位ヲ復行セズ佛蘭西二  
重本位ヲ廢止セバ此ノ二國ト大英及ヒ日耳曼トヲ合セラ其製  
造（按）此ニ製造ト言フハ上文  
ノ工藝ト其意ヲ同フス及ヒ貨幣ノ磨減ト失セニヨリ少ク  
トモ尚オ年々三千万弗ニ値ルノ銀ヲ消費スルナラベシ而シテ

四

現時ニ在ラハ此等ノ諸國之レヨリ多クノ銀額ヲ用ユ何ントナ  
レバ佛蘭西ハ唯法律上ニ於テ二重本位ヲ有スルノミナラズ實  
際ニ於テ巨額ノ銀ヲ流通シテ單ニ補助ノ鑄貨ガ要スル所ノ額  
ニ超過スルヲ殆ンド三億弗ニ至レバナリ  
巴理府ノ製造家ガ用ユル所ノ銀ハ每週一百万フランク即チ每  
年一千万弗ニ至ルト此製造物ノ一部分ハ必ズシモ佛國ニ於テ  
消費スルニアラズ之ヲ輸出シ或ハ常ニ巴理府ニ輻輳スル所ノ  
富逸ノ外國人ニ賣出ス者ナリ佛國ノ宏大ナル銀ノ製造ヲ默計  
スルノ外其銀ノ輸入輸出ニ超過スル所以ヲ説明スル能ワズ而  
シテ一千八百七十五年ニ至ル迄前八年間此超過ノ額二億六千  
二百四十一万五千弗ニシテ中既ニ貨幣ニ鑄造シタルト又貨幣  
ニ鑄造スル為メニ造幣局ニ送リタル者ハ唯一億四千万弗ノミ  
ニシテ巴理ノ製造家ガ消費シタル者八千万弗トノ計美ナリ其

餘四千二百四十一万五千弗即チ毎年五百三十万一千三百七十  
 五半ハ巴理府外タル佛国製造家ニ因テ用ラレタル者トシ若ク  
 ハ海関税ノ報告ニ精密ナラサル者アリト臆想シテ計差スルヲ  
 得ヘシ

千八百七十六年一月ヨリ十一月ニ至ルノ間佛国ニ於テ銀ノ輸  
 入其輸出ニ超過スル者二千四百五十九万零二百五十九弗ニシ  
 テ其中九百七十一万七千零八十弗ハ貨幣ニ鑄造シ其餘一千四  
 百八十七万三千百七十九弗ハ精査スルヲ得サル者ナリ  
 鑛業取調委員及ヒ造幣局長ノ計差ニ拠ルニ千八百六十年首ヨ  
 リ千八百七十六年末ニ至ル迄十七年間合衆国ノ銀塊産出總額  
 ハ二億八千九百八十五万四千五百二十七弗ナリキ  
 此同年限ノ間銀ノ輸出輸入左ノ如シ

輸出

五

本國ノ銀貨	三千六百六十九万六千八百四十弗
本國ノ地銀	一億八千九百二十万零九千九百二十七弗
外國ノ銀貨	八千三百五十三万五千二百零七弗
外國ノ地銀	九十二万一千五百五十二弗
總額	三億一千零三十六万零五百二十六弗

輸入

銀貨	九千九百三十八万二千六百六十八弗
地銀	六百八十九万四千零八十八弗
總額	一億零六百二十七万六千七百五十六弗

是レ輸入ニ超過セル純然タル輸出二億零八万三千七百七十弗  
 ニシテ之ヲ銀坑ヨリ産出セル額二億八千九百八十五  
 万四千五百二十七弗ヨリ差引  
 キ向オ国内ニ餘る所八千五百七十七万零七百五十七弗ナリ  
 此ノ年間ニ方リテハ貨幣ノ磨滅ト失亡トニヨリテ銀ノ消費ス

ル者僅少ナリ何ントナレハ諸種ノ貨幣ハ唯終時ノ間ニ流通シ  
券計クモ無ク紙幣ノ為メニ駆逐セラレタレバナリ(按) 駆逐セラ  
紙幣出デ、之レカ為メ故ニ其消費ハ銀板ト工藝トニ在リトセ  
ニ貨幣隠レタルヲ云 故ニ其消費ハ銀板ト工藝トニ在リトセ  
ガレヲ得ル而シテ之ヲ計算スルノ事故左ノ如シ

第一 純然タル輸出ニ超過スル産出高八千九百七十七万零  
七百五十七弗

第二 一千八百六十年ヨリ一千八百七十六年ニ至ルノ間銀  
貨及ヒ地銀ノ資本ノ減却ニシテ造幣局長ノ計策ニ依ルニ  
補助銀貨鑄造ノ三千万弗ヲ除ク時ハ此資本金ハ三百万ナ  
リト又一千八百六十年一月一日迄一千八百五十三年二月  
二十一日ノ布告ニ基テ専ラ内國ノ通用ニ供スル為メニ量  
目寡キ銀貨四千一百四十八万七千二百零七弗ヲ鑄造シタ  
リ此貨幣ノ通用價位其地銀ノ價位ニ超過スルヲ以テ利益

云

ヲ以テ之ヲ輸出スル能ワズ之レガ為メニ銀貨ノ金額若ク  
ハ約チ金額ハ千八百六十二年貨幣交換ノ止ム迄引続テ因  
内ニ流通シタリ此ノ外一千八百六十年ニハ十分量目アル  
米回銀貨ノ巨額及ヒ外國銀貨ノ更ニ大ナル額就中墨西哥  
弗及ヒ佛國ノ五フランク貨幣並ニ行ワレタリキ

第三 我海關ヲ經過セズシテ外國銀貨ノ額即チ上文ニ引キ  
タル十七年間千八百六十年ヨリ我ニ歸化シタル四百五十  
万零八千八百五十二人ノ携へ来レル者

千八百五十四年十二月十五日新約克ノ歸化取調委員ノ言  
ニ曰

「最モ信據ス可キ日耳曼人ノ計美ニ依ルニ前三年向日耳  
曼ヨリ合衆國ニ歸化セル人民ハ毎年約チ一千一百万弗  
ヲ合衆國ニ携へ入りタリト云フ然ラバ十七年間我國ニ

持込タル貨幣ハ計ル可ラザルノ大額ナリ

一千八百五十六年ニ於テ此ボノ取調委員ハ其帰化人ニ向

ヒタルニ其答ニ於テ渠ボカ合衆國ニ携へ入りタル貨幣ハ

該年ニ帰化セル十四万二千三百四十二人ニ割合ヒ平均一

人ニ就キ六十八弗零ハセントナルヲ知レリ

委員長ケン子デーノ報告(千八百五十三年一月三日)

千八百五十年ノ計表ニハ一人ニ就キ六十八弗零ハセン

トノ貨幣平均高ヲ得タリト云ヒ其後高ヲ取調タルニ若

シ其所有権ノ資本金(按)所有権ノ資本トハ帰化ノ日本國

キ者ニシテ即チ現ニ携へ来テモヲ入セバ少クトモ此計

表ニ二倍セルノ平均ヲ得タルナルベシト

然レ此十七年間帰化人ノ携へ来レル三億弗餘ノ貨幣ハ

幾許カ銀行券ナリシカ幾許カ金貨ナリシカ幾許カ銀貨ナ

リシカ其割合ヲ知ルニ由無シ蓋シ金貨ハ輕便ニシテ携送

シ場シト虫モ之レニ反シテ日耳曼帰化人ノ富者ハ多年金

貨ヲ有セサリシ國ヨリ来リタリ

以上ノ事實ヲ参考シ来レバ此十七年間合衆國ニ於テ銀板及ビ

工藝ノ為メニ年々平均一千万弗ヲ消費セリトノ想像(仮令)正確

説ナラサルモハ正鵠ヲ失ワザルニ庶幾シ

政羅巴佛蘭西大英及ビ日耳曼ヲ除キ亞米利加合衆國ヲ除キ亞

弗利加及ビ政斯都羅利亞ノ人口ハ各々左ノ如シ

政羅巴 一億九千二百万人

亞米利加 四千六百万人

亞弗利加 二億零三百万人

政斯都羅利亞 四百五十万人

總計四億四千九百五十万人

此中ヨリ亞弗利加人口ノ一億六千零九十万ノ臺野ナル部ヲ全  
ク計算外ニ置テ餘ノ二億八千九百万人ハ一人毎ニ大英國民ノ  
五分一ノ銀ヲ消費ス即チ統計シテ年々一千九百七十六万二千  
七百三十二弗ヲ消費スルナリ衆小國(荷蘭比耳時英領殖民地瑞典  
爾蘭諾威瑞典)ハ二千六百五十万ノ人口ヲ以テ一人毎ニ大英ニ  
同シキ額ヲ消費シ又一億三千二百万ノ人口ヲ有スル澳斯都利  
意大利魯斯亞改別魯斯ハ紙幣ノ為ニ大ニ銀貨ヲ吐出シ鑄貨  
ニ銀ヲ用ル至ラ寡シト雖モ其富豊ト其風俗トニヨリ他ノ用法  
ニ於テ他ノ用法トハ鑄貨大ニ之ヲ消費スルノ國民ナリ北部ノ  
亞弗利加ハ兩用法ニ於テ大ニ銀ヲ消費シ是班牙モ亦然カリト  
ス

世及ニ於テ年々産スル所ノ銀若シ現時ノ額七千四百万弗ニ過  
ギズシテ亞西亞ノ外ノ國々ニ年々五千万弗ヲ消費セシメテ此  
餘ニ引続カバ餘ス所ノ二千四百万弗ヲ以テ亞西亞ノ需要ニ供  
スルニ足ラザルハ明瞭ナリ夫ノ亞西亞ノ人口ノ其在四分一ヲ  
有セル英領印土ノミニシテ千八百七十五年迄四十年間ヲ平均  
シ年々此銀額ヲ即チ二千消費セシハ真確ノ計業ナリスチエム  
ノ統計表ニ亞西亞ノ人口ヲ以テ七億九千八百ト為ス此計業ハ  
印土ト支那トヲ除クノ外ニ一億八千二百万ノ人口ヲ有ストセ  
リ蓋シ印土ニ於テ消費スルノ銀ハ亞西亞中ノ消費ヨリ多キヲ  
疑フ容カラズ然リト雖モ其他ノ國モ亦消費少シトセズシテ支  
那ニ於テハ年々進フテ増加シタリ今ヨリ後モ亦恐クハ増加ス  
ル甚ダ大ナラン昨(千八百七十六年)年中印土支那ハ五千六百万  
弗ノ銀ヲ大英及ニ桑港ヨリ取リ外リキ

今ヨリ後歐洲ニ於テ銀ノ要求千八百四十九年前ノ要求ヨリ寡  
ラシムルトモ左ノ事ハ之ヲ記憶シテ忘却セザルベシ曰現今全



産出ヨリ少キ銀ノ産出ハ米州ノ産見ヨリ千八百四十九年ニ  
至ル迄金ヨリ多キヲ二三倍ナリキ而シテ金銀ノ関係價值ヲ互  
ニ相持シタリシハ是レ昔日ノ比例ニ属スル者ニシテ之レニ日  
リカリフォルニア及ビ澳斯都羅利亞ノ大ナル金坑ヲ産見スル前  
ノ二百年ハ大ニ此比例ヲ変更セザリシヲ

○金銀ノ関係價值近年ニ於テ騰降ノルヲ論ズ  
將來ニ於テ銀ノ價值ハ依然トシテ変ゼザル可キヤ否ヤノ問題  
ハ專ラ此章ノ考案ニ属スルガ故ニ金銀ノ関係價值ニ近日不意  
ノ變動アル事實ヲ蒐集シテ其要領ヲ萃ルハ將來ニ於テモ亦同  
様ノ變動ヲ起ス可キ原因アルヤ否ヤヲ判決スルニ必要ナリト  
ス甲ノ一点ヨリ着察スル者ハ則テ云フ將來斯ノ如キ變動アル  
可クシテ銀ニ定位ノ價アリトノ信用ヲ缺クハ倫敦ニテ一オ  
ンスニ付銀四十六ペンヌ四分ノ三ニ賣レタルノ事實ヲ以テ之

ヲ證スルニ十分ナリト又乙ノ一点ヨリ着察スル者ハ則テニフ  
金銀ノ関係ノ價值ニ大差ノ起ルハ全ク金上騰シタルニ因レ  
ル千八百七十三年日耳曼ニ於テ銀貨通用ヲ廢スルノ時ニ当リ  
金銀一般ノ價值ヲ以テ今日ノ價值ト比較セバ兩貨ノ物ヲ購得  
スル力増加シタルヲ知ラントス就中金ハ銀ニ超過シ其差異  
甚ク大ナリ然リ而シテ此事果シテ甲金屬金ヲ上騰シ金屬銀  
云ノ下降ニヨルニセヨ或ハ持リ銀貨ノ下降ニ属スルニセヨ是  
レ一時ノ變動ニ過ズレテ再々此ノ如キ原因アリテ其レガ為メ  
ニ此變動ヲ生スル能ハザル可キナリ  
一ト十五二分ノ一トノ金銀ノ関係價值亦位銀ノ一オンスニ就  
キ本位金ノ六十マンヌ八分ノ七ニ等キ割合ナリハ当百年間千  
八百七十五年ニ至ル迄永ク倫敦ノ市場ニ於テ格別ノ變動無カ

千八百七十五年中ニ至リ平均相場下降シテ五十八ペンス八分  
 七トナレリ  
 千八百七十六年向ニ至テハ倫敦市場ニ於テ各月騰降シタル  
 左ノ如シ

一月	五十六八分ノ一	五十四八分ノ七
二月	五十四八分ノ七	五十三
三月	五十四四分ノ一	五十二二分ノ一
四月	五十四	五十三三分ノ一
五月	五十四	五十二
六月	五十四	五十
七月	五十一二分ノ一	四十六四分ノ三
八月	五十三四分ノ三	五十
九月	五十二二分ノ九	五十一八分ノ一

10

十月	五十三二分ノ一	五十二
十一月	五十五	五十三八分ノ一
十二月	五十八二分ノ一	五十六

譯者按スルニ各月ノ下皆二段ノ價値ヲ付記スルハ蓋シ  
 月ノ始末ニ就テ之ヲ表スル者乎

千八百七十七年一月四日ニ於テ倫敦ノ地金商人ピキスリトア  
 ベル社ガ千八百七十六年中此商會ノ高況ヲ表シタル報状ニ曰  
 七月八日ニ於テハ四十六四分ノ三ナル例外ハ賣出レアリト  
 然リト雖此ノ非常ノ低價ハ新約克ノブラツクフライテイワラ  
 ハ其色ナリ轉ジテ慘澹ノ義ニ用ユラテイハ全曜日ナリ蓋  
 シ其年此日ヲ以テ金銀相場ノ變動ヲ極メ人心安ラサル事アリ  
 ノ目テ非常ナル相場ト云フノ最高ナル金價ノ例ニ等カルベキノ  
 故テ非トスル者ヲ云フ

千八百七十六年七月ニ最極度ニ達シタル金銀ノ關係ノ價値ハ

其騰降ヲ曳キ起セル原因左ノ如シ

第一 千八百七十一年日耳曼ニ於テ千八百七十三年七十四年  
合衆國ニ於テ千八百七十四年諾威瑞典ニ於テ銀貨ノ本位  
ヲ廢シタルヲ千八百七十四年佛蘭西、比耳時、瑞西、爾蘭、意太  
利ニ於テ銀貨ノ鑄造ヲ制限シタルヲ千八百七十五年四月  
荷蘭ニ於テ私人ノ為メニ銀貨ヲ鑄造スルヲ拒ミ之レニ  
對シテ造幣局ヲ閉タルヲ千八百七十五年瑞西、爾蘭ニ於テ  
全ク銀貨ノ鑄造ヲ絶タルヲ千八百七十六年夏ニ當リ佛國  
共和政府ノ大統領ガ銀貨鑄造ヲ全ク中止ス可キノ令ヲ布  
テ之ヲ實行シタルヲ同年是班牙ノ國王詔ヲ私人ノ銀塊  
ノ為メニ此國ノ造幣局ヲ閉テ且ツ二十八弗ニ過ル以上ハ  
銀貨拂ヒテ廢スルヲ成ル可ク文ヶ早ク之ヲ實行セント  
ノ政府ノ目的ヲ公告シタルヲ及ビ荷蘭ニ於テ銀貨本位ヲ

一、

廢セントスル内閣ノ目的ニ荷蘭立法院ノ採同シタルヲ千  
八百七十六年<sup>（英ニ荷蘭ノ造幣局ニ於テ佛人ノ銀塊ヲ鑄造  
スル制限ヲ立テタル）</sup>千八百七十五年四月規則ヲジヤウワ  
<sup>（荷蘭ノ屬島東ニ及ボシタル）</sup>  
第二 先年ヨリ印度ニ於テ銀ノ需求大ニ減シタルヲ  
第三 合衆國ニ於テ實際銀ノ産大ニ増加シ又此ノ増加セル  
事實ノ為メニ人々相傳承シテ其増加ヲ實額ヨリ誇張シタ  
ルヲ<sup>（英ニ金鑛、銀鑛ノ線緯ハ悉皆銀ナリトノ謬見ヲ固執シ  
テ其実約一半ハ金ナルヲ知ラザルヲ）</sup>  
第四 日耳曼ニ於テ銀行券一億三千万弗ヲ一時ニ廢止シタ  
ルガ為メニ之レニ換用ス可キ金貨ノ需求アリシヲ  
第五 合衆國ニ於テ千八百七十五年ニ法律ヲ出シテ千八  
百七十九年一月一日ヲ以テ金貨兌換ヲ復スベシト告タル

ニヨリ金ニ向テ甚シキ需求ヲ起スヘシト世界ヲ警起セシ  
メタル

第四第五ノ事實ニ関スル應効ニ就キ英國先年ノ例ヲ引キテ注  
意ヲ望マサル可ラズ千八百二十一年ニ於テ英國其金貨兌換ヲ  
廢スルニ方リ金ノ銀ニ對スル關係ノ價值騰貴スルヲ百ニ就テ  
五ノ割合ナリキ此時ニ當リ他ノ諸國ハ金銀兩本位ヲ有スル者  
ナク又銀貨本位ノ者モ無リシガ故ニ金ニ向テノ競争モ現時ノ  
如ク甚シカラス若シ此時ヲシテ現時ノ事情ノ場合ニ同一ナラ  
レバハ英國ハ毫モ金ノ兌換ヲ廢スル能ワザリシナラン然ラズ  
ニハ此ノ兌換ヲ廢スルガ為メニ金銀ノ關係價值ニ絶大ナル變  
動ヲ生ゼシナラン

一二

係ス可キナリ永年ノ間ニ或ル時ハ金銀坑ヨリ出ス金若クハ銀  
ノ甚シキ増減或ハ金銀ノ甚シキ増減アルモ又或時ハ貿易工  
業上ニ金銀貨ノ壅塞及ビ不融通アルベシ又各國政府ハ常ニ其  
貨幣ノ格位ヲ變更スルヲ得ベク若クハ金銀ノ鑄造ヲ停止シ又  
ハ制限スルヲアルベシ此等ノ事情ハ多少金銀ノ關係價值若ク  
ハ他ノ價值ニ影響ヲ生ズルナラン而シテ非常ノ形勢ニヨリ時  
トシテハ國內貨幣ノ兌換ヲ停止スルヲアリ然リ而シテ其停止  
モ回復モ共ニ金銀ト他物ノ關係價值ニ混雜ヲ生ゼザル能ハズ  
又金銀ノ關係價值ニ混雜ヲ生ゼサル能ハズ(若シ之ヲ停止シ之  
ヲ回復スルノ回々ヲシテ一金屬ヲ基本トセル貨幣ヲ有セシメ  
バ)然レハ近年ノ變化ヲ働キタル兩金屬ノ差異ノ諸原因ハ立法  
院ノ前見ニテ透見ス可キ或ル時限ノ間后未一時ニ一方ニ向テ  
現ハル、能ワザルヲ信ズベク却テ他ノ一方ニ向テ后未一時ニ

此諸原因ノ現ハル可キ機會アル可クシテ遂キ非常ニ備フルノ  
法律ヲ設ルヲ可トセバ銀ノ如ク金ノ本位ヲ察スルヲ要ス可キ  
ナリ  
金銀ノ其旧時ノ關係價值ニ復ス可キ勢即チ銀其下降ヨリ騰ル  
可キ勢ハ容歲七月ノ銀價極降ノ後速ニ明徴ヲ顯シ旧時ノ關係  
價值ヲ十分ニ回復スルヲ保ス可キノ信用ヲ明確ニスル進步ヲ  
為シタリ金銀ノ關係價值ノ差異ヲ大ニス可キ諸原因未タ其働  
キヲ止メサル間既ニ其実際ニ一部分ヲ回復シタルヲ以テ此復  
係ヲ固フスルノ大勢力常ニ存立スルヲ證セリ見ヨ此間ニ銀  
ニ對シテ閉テタル造幣局未タ開カザルナリ銀貨本位ヲ廢シタ  
ルノ法律未タ廢棄セラレザルナリ銀貨本位ヲ廢スル者アラシ  
トノ疑念未タ世人ノ腦中ヲ去ラザルナリ銀山ヨリ出ス所ノ銀  
額未ダ減ゼザルナリ(仮令其本額ニ超過セル誇張ノ謬案ハ既ニ

一、二

改正セラレタルニセヨ)又合衆國政府ニ於テモ千八百七十九年  
一月ノ交換令前久シク行ワレタル補助銀貨ノ鑄造ヲ此令後ニ  
引續キテ為シタルノ外ハ千八百七十六年以來一モ銀ノ金ニ對  
スル價格ヲ騰貴セシムル事ヲ為サザルナリ而シテ合衆國補助  
銀貨ヲ鑄造スルニ附テノ需求ハ昨年夏以來日耳曼政府ニ因テ  
銀ノ賣出ヲ増加セル一事ニテモ合衆國ノ需求ニ平均シテ高ホ  
多キノ供給アリ不八百七十六年一月以來銀ノ金ニ對スル價格  
ノ騰貴シタルハ諸政府ノ助ニアラズシテ銀ノ固有ノ力ニヨリ  
其價值ハ確トシテ其現存ノ總額ニ立チ其天下ニ普及スルニ立  
チ各國ノ人民一般之ヲ需求スルニ立チ特ニ東洋ニ繁息スル人  
民ノ需求スルニ立テリ  
歐洲ノ為メニ金貨本位ヲ主張スル所ノレ工ウオンスハ二年前  
ニ當リ左ノ説ヲ為セリ(貨幣及ヒ兩替書ノ一百四十二丁ニ見ハ

タリ  
印度支那ヨリ東洋ノ諸部熱帯ノ諸部ニ住スル所ノ數億ノ人  
民ハ皆銀貨ヲ通用セリ此習慣ヲ急ニ改ムルハヨモアラジ  
蓋シ日耳曼ヨリシテ流出スル所ノ四五千万ヲテリシノ  
銀ハ數年ノ間銀價ヲ低下セシムベシト雖漸次ニ東洋諸國ニ  
吸取セラル、難キニアラザルベシ夫ノ東洋諸國ハ二三年前  
前ヨリシテ絶ヘズ改羅巴ヨリ流出シタル金銀ヲ受入レタリ  
今ヨリ後歐洲ノ諸國迄々銀貨本位ヲ察スル有ルモ東洋諸國  
ハ之ヲ吸入スルニ十分ナルベシ但其甚ク速ナラサル可キノ  
亞西亜ニ於テモ他諸國ノ如ク貨幣ヲ好ムノ情ヨリ之ヲ要求ス  
ルハ限り無ク又厭クテ無シ唯亞西亜ノ實際ノ需求ハ銀ヲ受入  
レテ其代價ニ他物ヲ拂フノ分量ニ限りアルヲ以テ制セラレ、

一、四

ハ疑ヲ容ザルナリ然リト雖亞西亜地方ヨリ賣出ス貨物ノ總額  
ハ亞西亜ノ通貨ナル銀ノ價值ヲ保存スルニ足ラザルヲ決シテ  
之レアラガレナリ去レテ歐洲ヲ出テ、亞西亜ニ流入セル速カ  
ニ入ルニセヨ或ハ速カナラヌニセヨ銀ノ或ル額ハ能ク莫大ノ  
影響ヲ起スヤ否ヲ見ルハ至難ナリトス  
以上ノ諸證ニ就テ觀察スルニ永年ノ後ハ知らズ數十年間ハ唯  
亞西亜ノ需求ノミニテ歐洲ノ剩餘銀ヲ吸入シ時々ノ供給ニ平  
均シテ金ニ對スル銀ノ價值ヲシテ其旧時ノ割合ヲ保タシムル  
ヲ信スルニ足ラン又合衆國其銀貨本位ヲ回復スルトモ紙幣ヲ  
貨幣ニ換フルノ數ハ金銀ノ旧時ノ割合ヲ没スル前ニ為シ得タ  
ルヨリ多キヲアラガレテ信スルニ足ラン而シテ銀ノ時々ノ供  
給ハ先時ヨリ引續ク所ノ亞西亜ノ需求ノ為ニ騰貴スル價值  
ニ抗スルニハ却テ餘分ナクシテ歐洲ノ剩餘ハ却テ多ク吸取セ

ラル、一明ナリ然ルニ若シ亜西亜ノ需求ニ加フルニ新タナル  
大ナル増加スル所ノ合衆國ノ需求起ルヲアラバ正金引換ヲ復  
シ銀貨本位ヲ興ス如キ事實ヨリシテ金銀ノ旧時ノ關係價值ハ  
倏忽ノ間ニ没スルナルベシ

今ノ計ヲ為スニ浮流スル歐洲ノ銀額全ク東方ニ移去スルニ先  
ツテ合衆國頂ラク此銀ヲ收ルノ機ヲ攫取スベキナリ若シ因循  
狐疑ノ政策ニ因テ此機ヲ一失セバ此ノ如キ好時節ハ決シテ再  
ヒ来ラザルナリ夫ノ亜西亜ハ決シテ其入りタル銀ヲ出サス東  
方ニ入ル所ノ銀ノ流潮ニ於テ回流ハ決シテ之レアラザルナリ  
若シ合衆國ヲシテ歐洲ノ銀幣盡スルヲ待シメバ紙幣引換ノ為  
メニ銀ヲ得ルノ難キハ猶ホ此目的ノ為メニ現今金ヲ得ルノ難  
キ如クナラントス

合衆國政府ノ權利義務及ヒ特別ノ利害ニ関シテ觀察

一、九

ル銀貨本位回復ノ政畧ヲ論ス

合衆國政府ノ通貨ニ関スル法律畧史

一千七百八十五年合衆國ノ議院ハ聯邦同盟ノ約條ニ於テ銀ヲ  
以テ貨幣ノ本位ト為シタリ又一千七百九十二年四月二日議院  
ハ造幣局ヲ設クルノ法律ニ於テ布告シテ曰合衆國ノ貨幣ハ非  
貨即チ本位ヲ以テ各數ヲ定ムベシ而シテ其所謂非貨ハ現ニ通  
行スル所ノ是即チ鑄造ノ非貨ノ價值ナルベシト即チ純銀ノ三  
百七十グレイン四分ノ一ヲ含メル者ナリ此法律又ハ一グレ  
其表面數ヲ鑄出スレバナリトスノ純金ノ重量ヲ二百四十七グレ  
イン半ト定メタリ即チ金ノ二十四グレイン七五ヲ以テ一非  
ト定メタルナリ以テ一非ノ重量此ノ如シ是レ鑄造セル銀ノ  
十五磅ヲ以テ鑄造セル金ノ一磅ト相当セシメタル者ナリ一千  
八百三十四年ハ一グレノ純金ノ重量ヲ減ジテ二百三十二グレ

セントナセリ而シテ銀貨ナル弗ヲ変鑄セザルヲ以テ金銀間ノ  
相当比較ハ金ノ一ト銀ノ十六零四五トノ割合ヲ成セリ一千八  
百三十七年金銀兩貨ノ混和物ノ量ヲ変シテ兩貨ノ十分ノ九ヲ  
以テ純金純銀トナセリ即チ十分ノ一是レ弗ノ純銀ハ其量ヲ變  
セズト雖イ一ゲルノ純金ハ其量ヲ増加シテ二百三十二ゲレイ  
ニトナセリ故ニ金銀間ノ相当比較ハ金ノ一ト銀ノ十五九八  
ハノ割合トナリタリ一千八百三十七年ヨリ以未金銀兩貨ニ於  
テ其重量ト割合トニ於テ一モ變更スル所ナレ此等ノ経歴ヲ以  
テ合衆國ノ貨幣ハ銀弗ニ於テ純銀ノ重量ハ常テ變更セズ但シ  
金弗即チ十弗ヲナルノ純金ノ重量二回變更シタルヲ見ルベ  
シ

於テ之ヲ貨幣トスルヲ確認シ之ヲ定立シテ云政府ハ負債ヲ  
償還スルノ通貨トシテ唯金銀貨ヲ用ヒ其他ヲ用ユルナレト議  
院ハ通貨ノ趣意ニ於テ輿論ノ勢力ニ頼ルノ外金銀ノ本位ヲ廢  
止スル能ワズ唯此輿論勢力ハ涯際ナク之ヲ擴張セバ紙ノ或ル  
形容ヲ以テ通貨ト為スヲ得ルナリ議院若シ法律ノ通貨ヲ定メ  
能ハバ負債ヲ償還スルノ通貨トシテ金銀貨ノ外何等ノ物ヲ用  
ユルヲ得ルヲ夫ノ合衆各邦ノ之ヲ為スヲ得ザル如キニアラ  
ズ

一千八百二十一年ヨリ一千八百三十四年ニ至ルノ間金銀兩貨  
ノ法律上ノ相当比較ニ於テ金ノ一ト銀ノ十五トノ割合ナリシ  
時ニ當リテハ金百ニ付銀ノ百ニ對シテ開キヲ得ルヲ五ヨリ七  
ニ至レリ此ニ於テ金貨ノ流通跡ヲ市場ニ絶テ其鑄造ヲ造幣局  
ニ請フ者僅少ナリキ一千八百三十四年ニ定メタル金ノ一ト銀



十六トノ法律ノ割合ハ銀ノ價值ヲ賤フスルヲ当然ノ程度ヲ  
越ヘタリ之レヨリ以未千八百七十四年迄倫敦市場ニ於テ銀  
百ニ付金ノ百ニ對シテ一ヨリ三ニ至ルノ間キヲ得タリ然レ  
此間キアルニ拘ラズ銀貨全ク市場ニ跡ヲ絶ツトナレト雖千八  
百二十一年ヨリ千八百三十二年迄金貨ノ跡ヲ絶ツ如ナラスト  
其高次第ニ減少レタリレガ千八百六十二年ニ至リ金銀ノ兩  
貨共ニ紙幣ノ為ニ流通ヲ絶タリ千八百五十年ヨリ千八百七  
十三年ニ至ル迄貨幣ヲ以テ拂ヒテ為ス時ハ必ス金貨ヲ用セタ  
リ是レ兩貨中ニ就テ金貨ノ價值安ケレバナリ其理恰モ千八百  
二十一年ヨリ千八百三十四年ニ至ル迄ノ間銀貨ノ用ヒラレタ  
ルト理ヲ同フセリ然レ氏此各時限ノ間事情ノ變更ニ隨テ兩貨  
代ルニ消長ヲ相為レ金銀均ク貨幣ノ勢力ヲ有セリ  
千八百三十四年以後ハ此年ノ鑄造法律ニ因テ銀貨ノ價值ヲ賤

フセシガ為メニ外國貿易ノ互動平均ヲ取ラント金ニ比スレバ  
寧ロ銀ヲ海外ニ駆出スルノ勢アリ千八百五十二年ニ於テハ小  
商賣ノ取引キニ於テ小貨幣ノ稀少ナル甚タレキ勢ヲ現ハセリ  
此困難ヲ救フガ為メニ千八百五十三年二月二十一日ノ法律ヲ  
立ルニ至レリ其文ニ曰一弗以下ノ銀貨ハ其本位ノ重量ヨリ少  
シツバ減少シテ鑄造スベク而シテ此貨幣ヲ以テ拂ヒテ為ハハ  
一度ニ五弗ヲ限トス可シト此ノ如キ權宜法(即チ量目ヲ減シテ  
名義ノ通用ヲ為ス)ハ歐洲諸國ニ往々用ユル所ナリ千八百  
十三年ノ法律ニ先ダツテ未鑄ノ銀塊ヲ有スル人ハ法律定ムル  
所ノ何等ノ銀貨ニテモ之ヲ鑄造スルヲ求ムルノ權アリ(千八百  
三十七年一月十八日ノ法律第三十章)此法律出テザル以前ニ於  
テハ回法三(即チ銀貨ノ外ハ銀貨ノ鑄造ヲ請フノ權ヲ許サス而  
シテ銀貨ハ本位ノ量目混和ノ割合ナク又拂高ニ制限有ラザリ

キ此法律ノ箇條ニ於テ補助貨幣(即チ分數貨幣)ハ量目其名義ヨ  
リ下レル故ニ其貨幣ノ價值ハ其銀塊ノ價值ニ超過シ唯政府ノ  
議用ニ於テ之ヲ鑄造スルヲ許可セリ此規則ヲ以テ政府ハ其鑄  
造價值ト銀塊價值トノ差ヲ以テ補助貨幣ニ就キ此ノ差丈ケノ  
利益ヲ得タリ然ルニ千八百三十七年ノ法律設立ノ後(其大旨ハ  
上文ニ掲ゲタル如キ者ヲ以テ銀塊ヲ有スルノ人ハ之ヲ非銀貨  
ニ鑄造スルヲ求ムルノ權ヲ有セリ此非銀貨ノ量目ハ舊ニヨリ  
変更ナク又之ヲ鑄造シタル以上ハ金銀ノ如ク十分ナル本位價  
幣トナリタリ千八百七十三年二月十二日ノ法律設立迄ハ銀塊  
鑄造ノ權ヲ拒ムコトナク又千八百七十四年六月ノ改正令ヲ發ス  
ル迄ハ十分ノ量目アル非銀貨ヲ以テ本位貨幣ノ性質トスルヲ停  
止スルコトナク制限スルコトナカリキ  
上ニ引タル千八百七十三年二月十二日ノ法令ハ造幣局ノ規則

ヲ細説シタル者ニシテ六十七條ヲ有セル長文ナリ此法令ハ旧  
時ヨリ通用シ来レル銀貨ヲ廢止スルコトナク又千八百九十三年  
以前ニ鑄造施行セル所ノ本位重量ノ銀貨ヲ一モ廢セザルナリ  
此法令ニ於テハ銀非ノ名ヲ掲ゲルコトナシ故ニ此法令ノ為メニ  
銀非ニ影響ヲ生ズルコトハ蓋シ速了ノ見解ニテハ覺リ難キ者ナ  
ル可シ熟考スルニ此法令ハ左ノ事ヲ為シタリ其事ハ即チ非用  
銀貨四分一非銀貨及ヒ十分一非銀貨(皆本位重量以下ノ者)及ヒ  
本位重量ノ上ニ出タル亜西亜ノ通商ニ使用スル新銀貨(貿易銀  
ト稱シテ)ヲ鑄造スルヲ允許シ而シテ此等ノ貨幣ヲ以テ一回五  
弗以上ノ拂ヒニ用ユルヲ法律ニテ禁制シタルニアリ  
此法令ハ又金貨ノ諸名稱ヲ掲ゲテ混和金屬ノ小貨幣(法律ニ  
テ允許セラレタル)ヲ掲ケタリ此法令ハ旧時ノ銀非ヲ(其名稱ニ  
テ)引続キ鑄造スルコトヲ禁ゼス但シ國民ハ其銀非ノ中ニ減量混

和ノアルヲ知ラズ冥々ノ間損害ヲ被リタル者ヲ此法令第十七  
條ニ掲ゲタル一定ノ禁制ニテ止メタリ

第十七條ニ曰ク金銀貨幣若クハ其以下ノ小貨指銅貨ト虫以  
未此ニ制定シタル名位、重量ニ限リ其他ハ一切發行ス可カラ

千八百七十三年二月十二日ノ法令ハ此法令發行ノ前ニ鑄造  
タル所ノ合法重量ノ銀貨ノ通行ヲ廢スルヲ無ク又之ヲ変スル  
ヲ無シ然レ氏其第十七條ニ於テハ政府ニセヨ平人ノ請フニセ  
ヨ銀塊ヲ合法重量ノ貨幣ニ鑄造スルヲ得ルノ權ヲ止メタリ  
此法令ハ其何レノ條ニモ金銀兩本位ヲ改メテ唯金貨本位ニ変  
ス可キヲ令セバ此法令ノ標題ハ通貨本位ヲ変スルノ意ヲ有セ  
ズ唯造局、貨幣試験局及ヒ合衆國ノ造幣ニ關係スル法律ヲ改正  
變制スルノ法令ナリ此ノ如キ諸事ヲ包括スルノ標題ハ「コッダ

ル金貨ヲ混和セル鑄造貨ヲ少シク變セシムルヲ若クハ試験ヲ  
為スニ用ル舎密藥ヲ買ヒ入ル、ノ手續ヲ變セシムル一法令  
ヲ要シタルナルベシ

此法令ヲ發行シタル時其標題ニ掲ル者ノ外ハ別意ヲ以テ解セ  
ラレガリキ而シテ其最モ驚ク可キハ斯ク造國家ノ利害ニ關ス  
ル貨幣制度ノ變更ニシテ國人ノ智見注意ヲ逃レテ實行セラレ  
タル者アルト是レナリ此時ニ當テ現ニ國ニ通用シタル貨幣ハ  
即テ紙幣ナリシヲ以テ造幣法令ハ蓋シ一般ノ注意ヲ傾向セ  
メガリシナリ其單本位ト兩本位ニ關スル疑問ニ至テハ唯總力  
ニ下院ニ於テ議シタルノミ上院ニ於テハ一切之ヲ論セガリキ  
而シテ通國ノ新聞紙ニ至テハ其法令ノ將サニ行ワレシトスル  
間ヨリ其既ニ發布セシ時迄モ全ク黙止シテ後三年ヲ経ル迄  
論セガリキ若シ此法令ノ案實ニ銀貨本位ヲ廢止スル如キ重大

疑問ヲ包括スルヲシテ普ク世人ノ知ル所トナラシメハ全  
國ノ議論沸騰シタルヲ恰モ現今銀貨本位ヲ復セントスルニ際  
シテ議論ノ盛ナルニテ推察スルヲ得ベシ現今ノ疑問ハ即チ唯  
彼ノ法令ノ反對ナル者ノミ而シテ此事決論スルニ至ル迄ハ他  
一切ノ輿論暫時停止セラル、迄ノ勢ナリ  
蓋シ千八百七十三年ノ造幣法令ノ結果ニ関シ公論之ヲ等閑ニ  
附シタルハ大統領グランド氏ガ之レニ調印シタルヲ以テ明證  
ト為スベシグランド氏ハ議院ノ法律ヲ設立スルニ就テ之ヲ注  
目スル最モ切ナルノ人ナリ而シテ銀貨本位ヲ廢スルニ関シテ  
實ニ如何ナル事ノ生ズルヲ知ラス其翌年十月ニ至ル迄尚ホ一  
ノ通知ヲモ得ザリシナリ合衆國ノ大統領ハ日々國家ノ官吏公  
人ニ交通接對スルノ合衆國大統領ニシテ法律ハ既ニ銀塊ヲ鑄  
テ貨幣トスルヲ禁ジタルヲ聞ガレハヶ月間ナルヲ見レバ

般ノ人民ハ全ク此事ニ心附ガリシニ相違ナカルベシ  
千八百七十三年十月三日ロ子ラルグランドガコーネリー氏ニ  
與ヘタル書ニ曰

予ハ通用貨幣ノ不足ヲ供給ス可キ銀ハ既ニ市場ニ未ラガレ  
ニ驚ケリ經驗ニ因ルニ我國ノ高業疎通ニ要用ナル小変更ヲ  
為スニ一弗以下ノ通用貨大凡四千万弗無ル可ラザルヲ知  
レリ蓋シ銀貨ハ漸々此端數<sub>指一弗以</sub>通貨ノ位地ヲ占領シテ  
物價ノ尺度トナルベシ而シテ此ノ貨幣ハ大額ヲ秘藏スル能  
ワザル者ナリ予ノ臆計ニヨルニ現今ノ如ク金貨本位ナラン  
ニハ秘藏セラレテ通用ヲ為サバ尙貨幣蓋シ二億弗ヨリ巨億  
弗ノ間ニアラシ予ハ貨幣ノ秘藏ニ限り有ラシトテ庶希ス然  
レ氏予ハ全世界ニ通ジテ物價ノ尺度トナル可キ者ヲ秘藏ス  
ルヲ見ルヲ希望ス此尺度トナル可キ者ハ即チ銀ナリ

我國ノ鑛坑ハ今無限ノ銀額ヲ産セリ而シテ我國民ハ之ヲ如何ニ処分ス可キ乎是レ一問題トナリタリ余ハ此問題ニ左ノ答ヲ以テセントス曰ク通用貨トナシ其外國價格ノ一定スル迄邦内ニ蓄フベシ其一定スルニ及ンデハ外國ノ市場ニ向テ價ヲ得ルナルベシ是レ數年後ニ至テ適中スベキノ答ナリ

鑄造セル者ト鑄造セザル者ト共ニ銀ノ本位廢止セラレタルハ千八百七十四年六月改定令ノ(三千五百八十六章)左ノ文ヲ以テ確乎ト定マリタリ

合衆國ノ銀貨ハ一回ノ償還ニ五弗以下ノ高ニテハ其名稱ノ價額ヲ以テ法律通貨タルベシ

此文ヲ以テ前令ノ改正ト考察セラルベキ法律ハ未ダ審テ議院ヨリ登セラレザリキ

夫ノ改定令ハ一團トナシテ布令セラレタリ此諸令ハ唯現行ノ法律ヲ改正スルガ為メニ設ケ新奇ノ変更増加ナキ者ニシテ議院ハ其改定委員ヨリ新設ノ事項ナキトテ證書セラレタリキ然レモ委員諸氏ハ躬カラ此改定ノ精細ヲ実證シタルト有ル可ラズ必ズ他人ニ調査ヲ委子其人ノ證書ヲ信用シタルニ相違無ルベシ何人ニセヨ改定令ノ此誤謬ノ責ニ任ズル者ハ固意ニ議院ヨリ現行ノ通貨ヲ法外ニ放逐スルニアラズシテ之ヲ不用トスル所為ヲナシタリ

我國ノ貨幣史ニ於テ銀ノ大切ナルヲ

我國ノ貨幣史ヲ觀來ルニ銀ノ功用ヲ減却シ又弗銀ナル一特別銀貨ノ大額ヲ造幣局ニテ鑄造セザル旨ヲ屢々標返シ以テ銀貨本位ヲ復スルノ本旨ヲ敗リタルハ尤モ拙劣不適当ナル処置ト謂フベシ此ノ事タル均シキ他ノ事實ト共ニ重大ナル者ナリ

他ノ事實トハ何ソヤ一井ノ價ナル金貨ハ唯少量ノミヲ鑄造ス  
ルニ止マリ遂ニ今ニ至テハ全ク之ヲ許ササルト即テ是レナリ  
夫ノ銀貨本位ヲ復スルヲ要求スル者ハ唯其特殊ノ貨幣ニ止マ  
ラズ法律ノ許可スル者ハ何ノ名稱ニ拘ラズ造幣局ハ銀塊ヲ持  
來ル者ノ望ミニ随テ鑄造スルヲ欲スルナリ何ノ故ニ往日銀塊  
ヲ持來ル者非貨ノ大額ヲ望マザリシカ其理甚タ明瞭ナリ初メ  
造幣局ヲ設立スルノ時ニ方リ是班牙弗夥多ナリシガ其後四五  
十年ノ間又墨西哥弗甚ダ多ク此兩種ノ弗銀ハ共ニ法律上若ク  
ハ計義上我國ニ於テ法律通貨ト為サレタリキ然ルニ此種ノ貨  
幣既ニ十分ノ供給アルヲ以テ更ニ之ヲ鑄造スル無益ノ費用ヲ  
避ルノ間尚ホ千七百九十三年ノ初(此時造幣局ノ事務閑ケタリ)  
ヨリ千八百四十六年ノ末ニ至ル迄五十四年間銀ノ法律通貨ヲ  
鑄タルノ金貨ヨリ多カリシハ真ナリ其實數銀貨六千八百八十

二一

三万九千零十四井ニシテ金貨五千二百三十四万四千五百二十  
二井ナリ而シテ千八百三十四年ノ初ヨリ千八百四十六年ノ終  
リニ至ル迄夫ノ千八百三十四年ノ鑄造令ノ為メニ銀貨大ニ其  
價格ヲ墜シタルニ拘ラズ尚ホ銀貨ノ鑄造金貨ノ鑄造ト其額殆  
ンド伯仲セリ其實數銀貨三千二百七十六万三千九百三十七井  
ニシテ金貨四千零五十一万八千六百五十二井ナリ又千八百四  
十七年ニ至ル迄銀貨ノ超過ハ其鑄造ヨリ寧ロ其流通ニ於テ顯  
著ナルヲ見ル千八百三十四年以前金貨ノ開キアリシニヨリ内  
國外國ノ鑄造ヲ合セテ金貨悉ク流通ヲ絶ケタリ此時法律上ノ  
割合ハ金貨ノ一銀貨ノ十五ニ當ルヲ以テ千八百二十一年後金  
貨ノ開キハ百分ノ五ヨリ百分ノ七ニ位セリ是ニ於テ英國銀行  
金貨ノ拂出シヲ初メタリカリフオニア金坑發見後迄ハ金貨ノ  
通用僅少ナリキ此時ヨリ以前ハ合衆國諸銀行ハ其準備貨幣ハ

大抵皆銀貨ニシテ殆ンド米國ノ半ハ井銀ナリシ是レ其時事ヲ  
回想スル人ノ能ク知ル所ニシテ千八百六十二年ニ(此時迄ハ合  
衆國ニ於テ銀坑未タ發見セラレズ鑛業未ダ起ラザリシト至  
ル迄我國ノ貨幣史ニ於テ銀貨ノ功用ヲ為セルハ變カニ金貨ニ  
超タルノ時居多ナルヲ否トスル事ハ明カニ事實ニ背ケル者ナ  
リ金貨ノ通用銀貨ヲ壓倒シタルハ唯少時間ニシテ千八百四十  
六年魯斯亜金山ノ溢流ヨリ初マリカリフォルニアオーストラ  
リアノ流出ニ嗣キ千八百六十二年紙幣發行ノ爲メニ貨幣ヲ因  
外ニ馳出セシニ畢レリ造幣局ノ開設ヨリ現今ニ至ル迄ハ十四  
年間又造幣局開設ヨリ貨幣拂出シノ停止迄七十年間鑄造上ニ  
於テ五十四年ノ間ハ銀貨ヲ壓倒シ通用上下流通上ニ於テ更ニ  
一層ノ威力ヲ有シタリ

代用セシガ爲メノミナラズ兼テ半井銀ガ一井銀ノ用ヲ爲シ又  
一井銀ヲ使用ス可ラザル用所ニ充テタル故ナリ千八百四十六  
年ノ終リ迄造幣局ニ於テ鑄造セシ半井銀五千八百九十六万四  
千六百七十三弗ナリ銀井貨幣ヲ鑄造スルヲ要セザルハ恰モ  
金井貨幣ノ鑄造ヲ要セザルト同状ナリ(金井貨幣ノ鑄造ハ現今  
法律全ク之ヲ廢セリ)今我國ニ紛起是非スル所ノ問題ハ井銀云  
々ノ如キ瑣末ノ論ニアラズレテ金銀兩種ノ中ニ就テ其一種ノ  
本位ヲ廢シ他ノ一種ノミヲ本位ト爲シテ之レニ對スル者ノ價  
格ヲ下サントスルノ問題ニ係レリ此ノ問題ハ銀井ノ論ニアラ  
ズシテ實ニ銀貨ノ論ナリ即チ如何ナル名位ニセヨ如何ナル量  
目ニセヨ法律許ス所ノ中ニ就キ銀塊所有人ノ望ミニ任セ其便  
利ナルヲ撰マシム可キ近日ノ正制ニ復スルヲ要スルノ論ナ  
リ

千八百三十四年ノ法令ハ實際ニ於テ銀貨本位ヲ廢止シタルニ  
アラズ唯其價格ヲ下セシ迄ナリトスルノ論者アリ又千八百五  
十三年ノ法令ニ於テ補助銀貨ノ制ヲ立テタルハ此法令コソ實  
際ニ於テ銀貨ノ本位ヲ廢シタリト云フノ論者アリ此ノ兩種ノ  
論者ハ其時期ト原因ニ關シテ異議アルノミニテ其實際ニ於テ  
銀貨本位ヲ廢止セリト云フノ點ニ至テハ一ナリ又千八百七十  
三年以前既ニ銀貨本位實際ニ廢止セラレシナリ其千八百七十  
三年同四年ノ法令ハ唯法律廢止ノ旨ヲ明言シタルナリト云フ  
ノ點亦兩論者ノ一致スル所ナリ然レモ若シ此時既ニ銀貨本位  
廢セラレシトセバ其後銀貨本位廢止ノ法律ヲ施行セント議負  
ノ盡カセシハ之ヲ奇異ナリト云ワザル可ラズ千八百六十三年  
六月九日ヨリ此時ニ當リシエリマン氏財政取調委員長トナリ  
唯金貨ノミニテ以テ單本位トスルノ便ヲ陳シ其議ヲ合衆國ノ上

院 呈シタリ千八百七十三年二月十二日ニ至ル迄年々議會  
ニ於テ貨幣鑄造ニ關スルノ議案ハ彼ノ議ヲ實行セトスルノ  
意ヲ發セザル者漸ヘテ一回モ無リキ此等ノ主張ハ輿論ヲ動ス  
ニ足ラザリシト雖日誌ニ載スル所歴々トシテ見ルベシ若シ既  
ニ銀貨本位實際ニ廢止セラレタランニハ重子テ之ヲ廢止スル  
ノ勞ヲ取ル決シテ斯ノ如ク甚キコトアル可ラズ千八百七十三年  
同四年ノ法令ヲ以テ銀貨本位ヲ廢止シタルハ其既ニ實際ニ廢  
セラレタル故ニアラズシテ其唯金貨ノミニテ單本位トスルノ制  
ヲ立テザル可ラズ此制ヲ立ガレバ銀貨高キ本位貨幣タルヲ以  
テノ故ナリ是レ實蹟アルノ真説ナリ夫レ西方諸國ニ於テ通貨  
タルノ要性ハ其法律貨幣タルニ因ルガ故ニ其本位ニ立ツルト  
本位ヲ廢スルトハ全ク法律ノ上ニ屬セリ而シテ合衆國ニ於テ  
銀ノ通貨タルベキ金屬ナリシコトハ全ク千八百七十三年同四年



法令出ル迄依然トシテ旧日ノ如クナリキ其以前既ニ實際上  
本位幣止セラレタリト訛言スルハ蓋シ一時通用上銀貨ノ跡ヲ  
絶チシヲ見テ論スル者ナリ而シテ通用上其跡ヲ絶チタルハ銀  
其市場ノ價格騰貴シテ造幣價格ノ上ニ出タルニ由レリ又千八  
百七十三年同四年ノ法令ヲ以テ銀貨本位ヲ廢止シタルニ數年  
銀價下落シテ通用上ニ出現スルノ実効ヲ見ザリシハ人々未タ  
他ノ成績ヲ見定メ難キヲ以テ猶豫シタルノ原因ニ帰セザルヲ  
得ス他ノ成績トハ何ヲカ謂フヤ即チ銀塊掘出シノ額如何他國  
立法ノ模様如何ニ由テ銀價再ヒ金價ヨリ得分多キ貨幣トナリ  
テ再ヒ流通スルヲ得シトノ想像アリシニヨレリ而シテ此想像  
果シテ漸ク実事トナレリ

銀貨ニ関スル千八百七十三年二月十二日ノ法令ノ理ヲ論  
ズ○此ノ法令ノ公権私権ニ関スル効蹟

銀貨本位ヲ廢シタル所ノ千八百七十三年同四年ノ法令施行ニ  
関シテ未タ十分ナル理ヲ説キ出セル者ナシ其議案ニ下院ニ於  
テ簡約ニ説シタルニ銀弗ヲ尔後ニ禁セル條款ヲ可決セル所以  
ノ理ハ左ノ如クナリシ曰其價格ハ之ヲ金弗ニ比スレハ多キ  
百分ノ三ナリ故ニ銀弗ハ金弗ト並行シテ通用セラル、能ワズ  
通用ノ為メニ造幣局ハ銀塊ヲ齎シテ鑄造ヲ請フ者ナレト是レ  
ナリ夫レ鑄造ヲ要求スル者ナキ銀貨ナランニハ決シテ法律ヲ  
立テ、之ヲ禁止スルヲ要セザルヲ明瞭ナリ又其流通無キ故ヲ  
以テ銀貨ノ鑄造ヲ廢止スルヲ理トセバ此理ヲ推シテ金貨ノ鑄  
造ヲ廢止スルモ亦之ヲ理ト謂ガル可ラス紙幣ハ金銀兩貨ヲ排  
却壓倒シテ單一ナル通幣トナリタルヲ今ニ十有一年ナリ國中  
ニ通用セズ又鑄造ヲ要求セラレザル金銀兩種ノ一が其關係價  
格ヲ騰降シタリトテ之レガ為メニ我國ノ商業ヲ妨害シ不便ヲ

生スルト謂フ能ワズ又当時ニ通用セザリシ兩種銀ノ内唯其一  
ヲ用ユ可シト主張シ之レヲ駁スル者ナクシテ遂ニ行ワレタリ  
シ為メニ幾許ノ害ヲ曳出セシ乎殆ンド言ヒ易ラザル者アリ此  
ノ如ク常ニ貴重ナル論說日ヲ追テ其要用ヲ加ヘタリ特リ世人  
ノ深ク注意論究セズシテ等閑ニ附シ去ルヲ怪ムナリ  
金銀ノ関係價格ノ常ニ騰降スルガ為メニ貨幣ノ亦位屢々両者  
ノ孰レニカ変遷シタリシ事實ハ決シテ千八百七十三年間四年  
ノ法令ヲ発行セル理由トスル能ワズ我國ノ歴史ヲ通觀スルニ  
此ノ變遷アリシハ唯一回ニ過ズ而シテ是變遷モ亦金銀ノ関係  
市價ノ變化ニ由テ起リタルニアラズシテ千八百三十四年ノ鑄  
貨法令ニヨリ法律上金銀ノ関係價格ノ變ジタルニ由テ生ジタ  
ルナリ此鑄貨法令ハ金銀ノ重量ヲ減シ以テ銀幣ノ法價ヲ自然  
價ニ下シタルガ故ニ銀貨ヲ海外ニ輸出セシメタリ

千八百七十三年ノ法律ハ財務尚書ヲシテ銀貨ヲ以テ公債ノ元  
金若利金ヲ償還セシメザル為メニ設立シタル者ニラズ何レ  
トナレバ初メ合衆國政府ガ此等ノ公債ヲ起スノ約ヲ結ビタル  
時ノ考案ニヨレハ財務尚書ハ國ニ尽ス可キ義務トシテ金貨ノ  
價格低キ間ハ金貨ヲ以テ償還スベキガ故ナリ又此法律ノ起草  
者若シ其積成者ノ意ハ我國ノ最大功業タル銀坑開掘ヲ妨グル  
ニ在ラザルハ論ヲ竣ズ我國債ノ償還ニ充ツベキ新發見銀坑ヨ  
リ産スル利ヲ失ハシムルニ在ラザルモ亦明ナリ  
此法律設立者ノ目的ハ政府ノ信用ヲ厚クスルニ在リト云フヲ  
得ズ夫レ國家ト私人トヲ論ゼズ其有スル所ノ信用ノ大小ハ負  
債者ガ其証約ノ箇條ヲ確ク履行スベキノ力アリ且ツ此志アリ  
テ貸主金主ガ之ヲ信ジテ疑ワザルノ度ト廣サニ属セリ此境界  
ヲ越タル要請ハ負債主ヲシテ信用ヲ缺シメ疑惑ヲ未サレムル

ヲ免レズ此信用ヲ缺シムルト疑惑ヲ未サシムルハ当然ナル者  
ト謂フベシ此負債主ハ其証約ノ箇条ニ掲ケル所ヨリ多額ノ利  
金ヲ拂フベシト云フモ價格貴キ貨幣ヲ以テ償フベシト云フト  
モ決シテ信用ヲ加ヘ多額ノ債ヲ募ル能ワザルベシ公私ノ別ヲ  
問ハズ信用ヲ加フルノ最良完全ナル一方法ハ唯約束ヲ履行シ  
テ毫モ依違セザルニアルノミ其諸權利テ張シハ約外ノ要事  
スルニ就テ併セテ其諸義務ヲ履行スルノ速ハ約束ノ如ク償還シテ  
負債主ハ最モ信用ヲ得ベキ者ナリ信用ハ條約ヲ履行スルヲ以  
以得ベク之ヲ变换スルヲ以テ取ル可ラズ其旧約ヲ履行シテ新  
約ヲ為サザルニ存セリ

又此法律設立者ノ目的ハ既ニ發行シテ買主ノ掌中ニ在ル所ノ  
公債証券ノ價值ヲ騰貴セシムルニ在リト云フヲ得ズ夫レ政府  
が増サニ發行セントスル所ノ公債証券ノ價值ヲ騰貴スルハ政

務上絶大ノ要事ナルベシト雖既ニ發行シタル公債証券ノ價值  
ヲ騰貴セシムルヲ目的トナシテ國家ノ負債ヲ増加スルハ放マ  
、ニ且不正ニ私人ノ利ヲ計テ公衆ノ損害ヲ顧ミザル者ト謂ガ  
ルベカラス夫レ私人ノ掌中ニ在ル所ノ合衆國公債証券ハ世界  
各國ノ市場ニ於テ最上ノ價值ヲ有スル是レ國家ノ老譽ヲ求ム  
ル心ヲ満足セシムルニ足ルト雖是レガ為メニ例キヲ出シテ老  
譽ヲ買フハ我今日ノ國情ニ取リ財政ノ良計ト謂フ可カラズ然  
リト雖若シ既ニ發行シタル公債証券ノ價值ヲ騰貴スルヲ良策  
ト認メンニハ宜シク明白直接ノ手段ヲ用テ之ヲ遂ゲベシ此ノ  
如クナレバ國人一自シテ其費セシ所ノ方法ヲ知ルヲ得ントス  
其手段ハ例ヘバ既ニ發行シテ私人ノ所有セル公債証券ノ元金  
若クハ利金ヲ増加スル如キ即チ是レナリ金貨若クハ銀貨ニテ  
償還シ未レルヲ政府ノ随意ヲ以テ金貨ノミニ変更スル如キ尙

大蔵省

持ノ手段ヲ以テ之ヲ為ス可ラズ此ノ如クナレハ金貨ノ價值騰貴シテ之レガ為メニ政府ノ負債ヲ増加スルノ額蓋シ測ル可ラザル者アリ

利金ノ寡キ新公債證書ヲ発行シ之レヨリ得タル貨幣ヲ以テ償還期限ニ先テ公債ヲ置キ換エルノ良策タルコトハ論ヲ竣タズ(若シ旧公債證書ト同様ナル約束箇條ヲ以テ新公債證書ヲ発行スルヲ得バ)然レハ新公債證書ノ年限永クシテ又唯金貨ノミヲ以テ償還ス可キ約束ナランニハ(旧公債證書ノ如ク金銀ノ孰レニテモ可ナリト云フヲ得ズンバ)新旧ヲ置換ヘザルヲ良策トス何レトナレバ其公債ヲ償還ス可キ貨幣(按此所ニハ專ラ金貨ヲ指ス)ノ價值非常ノ騰貴ヲ致スガ為メニ受ルノ損ヨリ現今ノ利金ヲ拂フヲ以テ容易ナリトスレバナリ

若シ唯金貨ノミニテ償還ス可キノ公債證書ヲ発行シ之ヲ以テ金貨ヲ得此金貨ヲ以テ銀貨ヲ買入レ夫ノ五分二厘ノ利金ヲ付シタル公債(此公債ハ法律上道理上金銀ノ孰レヲ向ハス償還スルヲ得ル者ナリ)ヲ償ハシ政府ハ金銀ノ價ニ現時ノ差アル丈ケノ利益アリ然レハ尙未永キ間金價如何ヲ知ラズンバ其公債ヲ償還スル時ノ約束ヲ履行スルニ絶大不測ノ危殆アリ多少ノ事件現出スルナラン然ラハ金銀現價ノ差異ヨリ得ベキハ利益ヲ以テ此策ヲ可ト決定スルヲ得ズ然ルニ金貨ヲ以テ償還ス可キ證書ヲ発行シテ金貨ヲ得之ヲ銀貨ニ交換セズ直チニ其金貨ヲ以テ五分二厘ノ公債證書ヲ償還セバ其事ノ極愚ナル唯慙笑ス可キノミ

銀貨本位ヲ廢止シタル法令ニ左祖シテ之ヲ擁護スルノ論者ハ屢々左ノ辭ヲ主張シテ今高ホ之ヲ唱道セリ曰銀貨ハ實際ニ於テ流通上跡ヲ絶タルコト今ニ二十年ナリト然レハ此擁護論者ハ

大蔵省

本位廢止ノ時迄銀貨常ニ其貨幣タルノ諸性質ヲ具備シ之レ  
ニ由テ金貨非常ノ騰貴ヲ防ギタルノ事實ヲ顧ミガル者ナリ千  
八百七十三年ニ當リ金貨ハ銀貨ニ對スルノ價ハ唯百分ノ三  
ニ過ズ若シ紙幣ヲ引換ユルノ制ヲ緩スルトモ弗銀ノ通用ヲ直  
チニ引起スル無クシテ金貨ハ百分ノ三ヨリ以上ニ騰貴ス可ラ  
ス夫ノ銀貨本位ヲ廢止セシ時ニ當リテ銀貨ハ恰モ金貨ノ騰貴  
ヲ防ク所ノ護衛兵ナリキ夫レ一時通用ナキヲ以テ金銀ノ一ヨ  
リ貨幣ノ位ヲ削グハ淺慮ト謂フ可ク拙策ト謂フ可シ恰モ是レ  
西軍臺戰ノ間ニ當リ前面ニ接セサルノ故ヲ以テ大將其後軍ヲ  
解散スルガ如シ又海氣穩靜天空澄清ナルカ又ハ旅客水夫ヲ小  
舟ニ移スノ不便ナルガ為メニ船將其氣舟（指）空氣ヲ舟中ノ室ニ  
ラレテ難ナリヲ切棄テシムルニ似タル者ナリ  
用ニ備フル者ナリ

貨幣鑄造ニ就キ合衆國ノ義務及其權利

合衆國政府ノ國債ハ其利金若クハ元金ヲ償還スヘキ持別ナル  
通貨ヲ明言スルニ紙幣ヲ以テ償還スルト乎若クハ貨幣ヲ以テ  
スルト乎定メタルニ決シテ金貨ヲ以テスベシト云ハサルナリ  
千八百六十二年二月二十九日ノ法令ヲ以テ發行シタル五分二  
厘ノ利金ヲ附スベキ公債證書ハ之ヲ償還スルノ法左ノ如シ即  
チ元金ハ弗貨ニテ償フベシトアリ然レ其何ノ弗貨ニ係ルカ  
之ヲ明言セズ蓋シ紙幣若クハ貨幣ノ弗貨ヲ指スヲ得可シ然レ  
ハ其利金ハ貨幣ヲ以テスルトアリ而シテ貨幣ヲ以テ利金ヲ拂  
フトハ確保スル為メニ法令ハ特ニ海關稅ニ就テ之ヲ說出セリ  
其文中ニ載セテ曰海關稅ハ唯貨幣ノミヲ以テ之ヲ徵收スベシ  
ト此貨幣トハ金銀ノ兩貨ヲ兼稱スル者ナリ此等ノ海關稅ニ關  
シテ最後ニ布令シ今現ニ行ハル所ノ法令ハ千八百七十四年  
ノ改定令三千四百七十三項ニ出ヅ其言ニ曰海關稅ハ金銀兩貨

歲

ヲ以テ之ヲ拂フヲ得可シト

千八百六十三年三月三日ノ法令ヲ以テ一割四分ノ利ヲ附シタル公債證券ヲ發行シ此公債ハ元利共ニ貨幣ヲ以テ償還スベシトセリ

千八百六十九年三月十八日ノ有名ナル公告決定局ハ公衆ノ信用ヲ強固スルガ為メニ發セル者ナリ而シテ此公告書ニ於テモ金貨償還ノ約束セシ貨幣ニ申ル者ナル者ヲ明言シタリ又千八百六十九年三月十八日ノ法令ノ特別ナル証文ハ左ノ如シ曰ク一切ノ國債ハ貨幣若クハ貨幣相当ノ者ヲ以テ之ヲ償還ス可シ但シ法貨若クハ金銀ハ他ノ通貨ヲ以テ償還スベシトノ明文ヲ掲ゲテ約束シタルハ例外ナリト

千八百七十年七月十四日ノ法令(現今國債ノ資本ヲ入レ替ユルハ此法令ヲ遵奉シテ之ヲ為スハ金貨ヲ以テ償還セズ貨幣ヲ以

テ償還スル)ヲ掲ク其唯新タニ增加セル條中ニ載セテ去ッ其償還ハ現今ノ價格ノ貨幣ヲ以テ之ヲ為スベシト

千八百七十年七月十四日ノ法令ヲ以テ發行シタル公債証券ノ表面ニハ左ノ文字ヲ印刷シタリ

此公債証券ハ千八百七十年七月十四日公許セラレ千八百七十一年一月二十日公許ノ法令ニテ修正セラレタル「國債ノ資本ヲ置替ル」ヲ許セルノ法令ト稱セル國會ノ法令條目ヲ遵奉シテ發行セリ此公債証券ハ、年後ハ千八百七十年七月十四日ノ法令ニ定メタル價格ノ貨幣ヲ以テ合衆國政府ノ隨意ニ之ヲ償還スルヲ得而シテ其利金モ亦同價格ノ貨幣ヲ用ユ

千八百七十年七月十四日ニ於テ銀井ハ定位銀ノ四百十二グレイ「半」ヲ含有シテ金井ニ相当ノ者ナリシ此金井ハ現今ノ如ク

定位金ノ二十五グレインハ含有セル者ナリ此金銀兩種ノ非  
貨ハ通貨トシテ同一ノ役目ヲ遂タリ一切ノ負債(公私)ニ拘ラス  
ト一切ノ額數ニ向ニ一樣ニ法貨トシ用セラレタリ何人ヲ論ゼス  
金塊若クハ銀塊ヲ所持スル者ハ之ヲ造幣局ニ持参シ一定ノ手  
続キヲ經テ自己ノ失費利得トシテ之ヲ十分ナル法貨ニ鑄造ス  
ルノ權アリ斯ノ若ク鑄造シタル上ハ此貨幣即チ千八百七十年  
七月十四日ノ法令ヲ以テ達シタル現今ノ定位價格ノ貨幣トナ  
ルナリ且此法令ヲ以テ發行セシ公債証券ハ此貨幣ヲ以テ償還  
スルコトヲ得

金貨ノ本位タルコトヲ廢止スルノ權ハ銀貨ノ本位ヲ廢スルヲ得  
ルト同一ノ基礎ニ係レリ而シテ此兩貨ノ本位タルヲ廢スルノ  
權ハ恰モ其各貨ノ一ノ本位ヲ廢スル權ト同シク確乎タル權ナ  
リ合衆國ハ其随意ヲ以テ其貨幣ニ含有スル金屬ノ重量割合ヲ

變  
ルヲ得可シ合衆國ハ其貨幣ノ純金銀ノ割合十分ノ九ヲ變シ  
テ十分ノ七トナスヲ得可シ或ハ價值ノ定度タル金銀弗ヲシテ  
千八百七十年七月十四日ノ法令ニ定メタル定位價格ニ含有ス  
ル金銀弗ヨリ其量目ヲ減少セシムルヲ得ベシ然レモ一金屬銀  
弗一若クハ兩金屬ノ本位ヲ廢スルニセヨ又或ハ各金屬ノ量目  
割合ヲ變スルニセヨ千八百七十年七月十四日ノ法令ヲ以テ發  
行セル公債証券ニ關スル我國ノ權利ヲ奪フ能ハズ又之レニ對  
スルノ義務ヲ除ク能ハズ又本位ヲ廢止シ量目割合ヲ變スル如  
キ法令ハ千八百七十年七月ノ法令ヲ以テ發行セシ公債証券所  
有人ノ為メニ新タナル權利ヲ附スルヲ得ズ又新タナル義務ヲ  
課スルヲ得ズ千八百七十年七月ノ法令中ニ其公債ヲ償還ス可  
キ通貨ヲ定ムルガ為メニ掲ゲタル現今定位價格ノ貨幣ト云ハ  
ル文字ハ壹千八百七十年七月十四日ニ於テ現存シタル貨幣ノ

定位價格ヲ変スル政府ノ権アリト云フ義ヲ會蓄スルノミナラ  
ス蓋シ此ノ如キ變化アルベキヲ豫想セシノ詞ナリ而シテ該法  
令ノ趣旨タル此公債証券ノ所有人ヲシテ此ノ如キ變化ノ為  
ニ損失セガラシムルノ保護ヲ為スルアリ而シテ此公債証券ガ  
合衆國ニ對スルノ權利ハ證券ノ元利下落シタル時、定位價格  
ノ貨幣ヲ組立ル如キ重量割合ノ非若クハ地金ヲ以テ拂フ可ラ  
ズ必ズ千八百七十年七月十四日ニ當リテ合衆國ノ定位貨幣  
リシ如キ重量割合ノ全銀貨ノ中ニテ拂フ可シト云フニアリ仮  
令合衆國カ其通貨ヲシテ紙幣トナシ或ハ普斯重ニ於テ鑄造ス  
ル如キ「プラチナ」ヲ貨幣トナス此之ヲ以テ夫ノ千八百七十年七  
月十四日ノ法令ヲ以テ發行セル公債ヲ償還スルヲ得ズ金銀ノ  
中ヲ以テセザル可ラズ又其當時ノ定位價格ノ貨幣ヲ以テセザ  
ル可ラズ今日後合衆國全銀兩弗ノ純全銀ヲ減少シテ現今ノ

三二二

重量トナスニモセヨ夫ノ公債証券ノ所有人ハ之レガ五ニ損  
害ヲ被ル可キ道理ナシ又之レニ及シテ合衆國現今ノ全銀兩弗  
ノ重量割合ヲ増加スルニセヨ政府ハ此増加セル全銀兩弗ヲ以テ  
公債証券ノ所有人ニ償フテ自ラ損害ヲ受ルノ道理ナシ一切ノ事  
情ニ拘ラス夫ノ公債証券ノ所有人ハ千八百七十年七月十四日  
ノ定位價值ノ貨幣ヲ以テ償還ヲ要求ス可キ明白ナル權利アリ  
又政府ハ當時ノ定位價值ナランニハ全銀兩貨ノ中孰レニテモ  
其願意ヲ以テ償還スルノ明瞭ナル權利アリ此等ノ權利ハ政府  
ト公債証券所有者ト相互ノ者ニシテ共行セザル可ラズ政府若シ千  
八百七十年七月十四日ノ法令ヲ以テ發行セル公債証券ヲ償還  
スルニ當時ノ定位價值ノ貨幣ヲ以テスルヲ拒マバ是レ公証所  
有人ノ權利ヲ害スルナリ政府若シ國民ニ對シテ千八百七十年  
七月十四日ノ定位價值ノ全銀兩貨ノ中隨意ニ其一ヲ以テ償還



スルヲ肯シザレハ是レ人民  
ハ一般人民ノ租税ナレバ政府  
ハ人民ノ租税ヲ以テ支出スル  
ニ人民ノ租税ヲ以テ支出スル  
以テ公債ノ推シテ有害ト云  
別者スルト云フ者ヲノ推利ヲ害スルナ  
リ

千八百七十年七月十四日ノ法令ノ目的ハ最少ナル利息ノ割合  
ヲ以テ公債ノ資本ヲ置替ルニアリ故ニ此法令設立者ハ其條理  
ヲ以テ為シ能フ大ケ此法令ニ因テ発行セル公債証券ノ約束條  
目ヲレテ出金人ノ意ニ適ハシメント希望シタリ夫レ公私ノ條  
約ヲ論セズ如何ナル弗銀ヲ以テ償還セント云フ特別ノ條款ヲ  
明掲セザル者ハ其條約ノ何物タルニ拘ラズ法律定ムル所  
償ヲ以テ償還ス可キハ我國一定ノ法律規則ニシテ此趣旨ハ開  
明諸國ノ認ムル所ナリ斯ノ如ク世上一般認ムル所ノ趣旨ヲ顧  
ミ政府ト公証所有人トノ權利義務ヲ明瞭ニ解キ出スガ為メニ

千八百七十年七月十四日ノ法令ハ貨幣ヲ以テ償還ス可キト云  
フ近日普通ノ詞ヲ變シテ特ニ昏シテ現時定位價值ハ貨幣ヲ以  
テ償還スベシト云ヒタリ此變化セル言辭ハ此法令ニ因テ発行  
スル公証ヲ講賞スル人ノ為メニ種々ノ定位價值ノ貨幣ヲ以テ  
償還セラル、トテ拒キタリ然レモ合衆國ノ人民ノ為メニ其隨  
意ヲ以テ該時ノ定位貨幣ノ中金銀ノ孰レヲ撰シテ償還スルノ  
權利ヲ固フセルハ明瞭ナリ若シ新タニ持昏セル言辭ガ合衆國  
政府ヲシテ該時定位ノ貨幣ヲ以テ償還セシム可キ嚴格ナル義  
務ヲ政府ニ負セタリト見ル時ハ公証所有人モ亦此言辭ノ如ク  
嚴格ニ之ヲ受取リテ異論ナカシメタルナリ合衆國ハ改羅巴  
ニ負債ヲ約シ彼地ニ於テ償還ス可キ負債ヲ有セズ但シ我國內  
ニ償還ス可キ公債証券各大ニ彼地ニ渡レル者アルノミ合衆國ハ  
革命獨立ノ戰爭以來外國負債ヲ為サバウキ我國債ハ悉皆我國

内ニ於テ償還シ又弗銀ヲ以テ償ヒタリ我法律ハ外国ニ在テ我  
合衆國ノ公証ヲ有スル人ニ共フルニ国内ニ住スル公債証者所  
有人ニ過グルノ便利ヲ以テセズ共ニ公平ニ法律ニ適ヘル同一  
ノ位置ヲ共ヘリ議院ヲ誘導シテ外国ニ於テ償還ス可キ公債証  
者ヲ發行セシメ又外國ノ貨幣ヲ以テ償還セシメンクノ舉ヲ為  
サント試ミタル事屢々之レアリシガ僅カニ小額ノ公債一回ヲ  
除キテ他ハ皆破レタリ合衆國成文律十二卷二百六十葉ヲ見ヨ  
然レ此此一回ノ公債モ合衆國ガ之ヲ許可セシ者ニシテ對等ノ  
條約ヲ為セシニアラス政羅巴人民ヲ初メ他國ノ人民ガ合衆國  
ノ公債証者ヲ購買スルハ自ラ好シテ之ヲ為スナリ全ク自發  
利ヲ計ルガ為メ之ヲ為スナリ合衆國ノ利益便利ノ為メ之  
ヲ為スニアラザルナリ彼等ハ其公債証者ノ發行ヲ允可セル法  
律ヲ熟知シタル上確カト其條目ヲ追フテ之ヲ購買スルナリ法

二二

律ハ衆庶ノ公然觀覽ヲ許ス者ナリ自己ノ利ノ為メニ其明瞭ナ  
ル趣意ヲ曲解シテ己レ法律ヲ明知セザルガ故ニ之ヲ致セリト  
申述スルヲ許サズ如何ナル公債証者ト虫臣之ヲ許可セルノ法  
律ヲ引用シ又其約束條款ノ要文ヲ具呈シテ之ヲ表面ニ印創セ  
ズシテ發行シタル者アラザルナリ蓋シ其約束條款ヲ熟知セズ  
シテ公債証者ヲ購買セル者アリト云フハ決シテ信ス可ラス後  
令此ノ絶ヘテ無ル可キノ事万一之レ有りレトスルモ合衆國政  
府ハ其公債ヲ処分スルニ當リテ夫ノ之ヲ許可シタル所ノ法律  
ニ確遵ス可キナリ此法律ハ國民ノ權利ヲ保守シタル上同レ度  
ヲ以テ公証者有人ノ權利ヲ保守シ互ニ輕重スル所ナシ後令不  
注意ナル公証者有人アリテ法律ノ明文ヲ眼界ノ外ニ置クトモ  
之レガ為メニ我國民ノ利益ヲ保守スルノ城寨ヲ失フ可ラズ  
金銀兩貨ノ中孰レ一ヲ以テスルモ隨意ナル可キ法律上ノ合

大義

衆國政府ノ權利ハ明白ニシテ之ヲ拒ムノ言辭ナキ程ノ者ナリ  
其唯金貨ノ一ヲ以テ償還セラルベシト抗言スルノ要求ハ曖昧  
ナル理論ト言フベシ此等ノ理論ノ稍々言フ可キ者ヲ挙シニ大  
昔左ノ如シ曰此公債証券發行ノ時ニ當リテ銀貨ハ通貨ノ用ヲ  
為サバリシナリ又現ニ此公債証券ハ多ク外國人ノ手ニ在リ其  
因々ハ銀貨ヲ本位通貨ト認メタル者ナリ又是迄此ボハ公債証  
券ヲ償ヒタルハ皆金貨ニシテ銀貨ニアラザルナリ又此証券ヲ  
購買セル者ハ金貨ヲ以テ償還セラル可シト豫想シタリ是ボノ  
條理ヲ以テ推セハ公正ニヨルモ名譽ヲ顧ミルモ共ニ金貨ヲ以  
テ償還スルヲ要スト然リ而シテ此ボハ公債証券ノ約束ヲ賣出  
シテ為スノ間ニ當リ金貨ハ通貨ノ用ヲ為サバリシトハ恰モ銀  
貨ハ通貨タル用ヲ失ヒシト同一ナリ又此公債証券ヲ首トシテ  
多分ニ購買シタル國ハ日耳曼ニシテ該國ハ千八百七十一年十

三九

二月迄ハ金貨ヲ通貨ト為スヲ認メザリシ且現今ト至銀大  
抵同一ノ多數ニ通用スルナリ千八百七十三年迄ハ貨幣ヲ以テ  
公債証券ヲ購買スル者ハ金銀ノ中孰レヲ以テスルモ自己ノ隨  
意ナルヲ志レザリキ又當時ノ相場ニテハ金貨ハ通貨トシ  
銀貨ヨリ割合安キ者ナリケレバ金貨ヲ以テ公債証券ヲ購買ス  
ルノ機ヲ失ワザリヤ而シテ合衆國政府モ亦先日ノ購買者ガ有  
セシ隨意ノ推ヲ失フ可ラズ又償還ノ通貨トシテ金銀ノ中孰レ  
カ價ノ安キ者ヲ取ラスレテ猶豫スルハ政府唯卑弱ナルノミナ  
ラズ寧ロ國民一般ヲ損害ス可キ不良事トナルヲ恐ルミザル可  
ラザルナリ夫ノ金貨ノ相場安キ時ニ當リ之ヲ以テ公債証券ヲ  
購買セル人ハ金貨ノ安キ間ハ金貨ヲ以テ政府ヨリ償還セラル  
ベシト豫想スレナラン渠ボハ合衆國政府ガ安キ金屬ヲ換ミテ  
償還スルヲ己レガ購買セシ時ニ為シタルト同ジカル可シト常

覚悟せしナラン染ホハ政府ト約束シテ公債証書ヲ購買セシ  
以後ニ発行ラレタル法令ニ於テ前日ノ事ノ取消シトナラガ  
ルヲ見テ稍々失望ノ歎アルヲ免レシ又通債ニテ償還スル古制  
ヨリ進ンデ償幣ニテ償還スルトナリタルハ難事ナリシガ之  
レヨリ又進ンデ金債トナルトハ更ニ至難ナルトナリシ失望セ  
ルナラン千八百六十九年三月十八日議院ノ決議ヲ以テ其至難  
タルヲ知ルニ十分ト見ユルナリ

安キ債ノ金屬ヲ以テ公債ヲ償還スル時ハ因ノ内外ニ向テ我志  
誓ヲ落シ我信用ヲ薄クス可シト揚言シテ我政府カ有スベキ疑  
ナキ権力ヲ揺攪セント企ル者アリト虽是レ論ズルニ足ラザレ  
ナリ夫レ諸般條約ノ文唇ヲ履行シテ毫モ違ワサルハ国家ノ信  
用ヲ固フス可キ確然タル最良手段ナリ又国家ノ志誓ハ平時ト  
戰時トヲ同ワズ唯人民愛國ノ精神ニ因テ永ク之ヲ保ツ可キナ

然ルニ債主ノ虚賞ヲ買ハントシテ因ノ実カニ税セバ是レニ  
因テ愛國ノ精神ヲ卑弱ナラシムルハ疑ヲ容レズ万因ノ中ニ在  
テ條約ヲ履行シ嘗テ一回ノ違フヲ無キハ唯合衆國ノ政府ヲ然  
リトス合衆國政府ハ一切ノ約束義務ニ對シテ迅速ニ且十分  
履行スルヲ怠ラザリキ我政府カ現今ノ如キ國憲ヲ制シテ一政  
府トナリタルヨリ今ニ約一百年ナリ若シ此期限ノ間一切ノ義  
務ヲ迅速ニ履行シテ以テ十分ナル信用ヲ得ザリセハ將來我政  
府カ為レ得ベキ事業ニ就テ此ノ如キ信用ヲ得シト冀望スルヲ  
得ズ此一百年ノ間政州ニ雄視スル最大強國ノ政府ニ其約束義  
務ヲ履行スルニ怠レルヲ見得タリ大英國ト並尚今百年代中ノ  
多年間其公債ノ利息(貨幣)ニテ償還ス可シト約シタル者其多分  
ヲ占ムヲ不換銀行券ヲ以テ償還シタリ而シテ此銀行券ノ下落  
セル最モ甚キ時ハ百分ノ三十迄ノ下落ヲ為シタリキ此ノ如ク

大  
債  
目

諸国が其約束セシ割合ヨリ償寡キ貨幣ヲ以テ償ヒタルヲ往々  
之レ有ル向、於テ合衆国政府ハ獨リ諸国ノ右ニ出テ人ノ為メ  
ニ利ヲ割クノ心ヲ以テ其嘗テ約束セシヨリ償多キ貨幣ヲ以テ  
償還スルトセンニ其約束ニ過ルノ義務ヲ履行スルガ為メニ国  
民ニ被ラレムルニ増加セル負擔ヲ以テシ此負擔ヲ為シタル償  
ヒトシテ得ル所ハ唯此舉ニ因テ利益ヲ獲タル人ヨリ受ルノ虚  
賞クニ而シテ此ボノ人ハ利ヲ先ニスル者ナレバ国家ニ尽スノ  
志氣寡キハ必然ナリ且不正ノ利益ヲ獲ルノ人ハ仮令隱藏シテ  
現ハサバブルニセヨ政府ガ其誘導ニ従フヲ密ニ輕侮スルノ心ア  
リ而シテ我政府ヲシテ内外債主ノ褒貶ヲ深ク顧念セシメ我  
民ノ大部分ガ政府ヲ褒貶スルノ一方ヲ不問ニ置レシメントスル  
蓋惑セラレタル心情ハ国色ヲ念フノ至當ナル精神ニアラスニ  
ヲ卑弱兎戲ノ虚譽心ト謂フべシ自家ノ利益ニ反對シテ他ノ要

求ニ應シ明文アル條約ノ條款ヲ其約主ニ削除セシメントスル  
想像ノ虚譽心ハ思慮ナキ幼者ノ妄想ト小説野史ニ於テ看者ノ  
娯樂ヲ取ル誤柄トナル可シト蚕堂々タル国民ガ條約ヲ為シ其  
文字明瞭ニシテ含蓄ノ餘意ヲ容レガル國家ノ義務權利ヲ明  
スル有司ノ向ニ用ナキ者ナリ  
記録セル條約昏ハ其明文ノ条ヲ逐フテ解散セサル可ラス此法  
ヲ除キ他ノ解散ヲ用ニル時ハ之レヨリシテ紛擾ト不正トナ生  
ジテ其底止スル所ヲ見ガルべシ此ノ如キ事情ハ政府ト政府ノ  
債主ト、向ニ取結ヒタル條約ニ於テ最モ甚シトス何トナレ  
バ此両間ニ立テ正理ヲ裁決ス可キ審判廳無キガ故ニ情実ヲ酌  
量シテ正理ニ帰スル一各譽ヲ顧ミテ処置スル一ノ疑問ハ安心  
シテ政府ヨリ言ヒ出ス能ハサル者ナリ是ノ場合ニ於テハ政府  
ノ方非分ナル様ニ情実裁決ヲ為スノ外ナシ之レニ反シテ債主

己レ情実ヲ主張シテ利アルト見ル時ハ情実裁判ニヨリ其不利ト認ムル時ハ明文ヲ取テ主張スルナリ情実裁判廳ニ出ル訴訟人ハ情実ニ因テ訴フル者ハ情実ヲ基トセザル可ラザル條ヲ規則トセザル可ラス此場合ニ於テハ合衆國政府ノ利トナル可キ許多ノ好情実アリ内乱ノ時ニ際シ公債証券ハ紙幣ト同價ニテ發行シタリ而シテ當時其紙幣ハ一併ニ付金銀貨ノ四十セント迄ノ低價ナリキ内乱ノ以後金銀貨ト引換ヘニテ發行シタル公債証券アリテ此金銀貨ハ債主カ證券ヲ買タル後價格大ニ騰貴シ今尚オ騰貴スル最中ナリ此等兩貨ノ事情ニ関シテ合衆國政府ガ若シ其証券面ニ記載スル金額ヲ差引キ減少シテ債主ニ償ハ、世人ハ必ズ不名誉ナリト毀訾シ負債主償還ヲ拒ミタリト罵詈スルナルベシ而シテ此事ニ関シテ情実ヲ陳ベ正理ヲ決スルノ審判廳無キカ故ニ債主ガ自己ヲ利セント主張スル暇

跡糊塗ニシテ甚タ劣リタル情実ヲ亨通セシムル能ワズ公債証券所有者ニ對シ政府ノ名譽ヲ証トシテ揺擻セザラシメタル者ハ千八百七十年七月十四日ノ法令ヲ遵奉シテ發行シタル公債証券ノ元利ヲ當時ノ定位價格ノ貨幣ニテ償還スル一事ノミ而シテ此法令ヲ遵奉シテ發行シタル公債ヲ償還スルニ當時ノ定位價格ノ貨幣ナランニハ其貨幣中金銀ノ孰レヲ撰ムトモ自在ナルヲ權ハ人民(按)人民ハ債主外ノ國民ヲノ有スル所指ス前註ヲ參看スベシトス是レ他ハ一モ政府ノ名譽ヲ証トシタルヲナシ此條約ニ関シテ兩約主アリ其一方ヲ公証所有者トス他ノ一方ハ即チ人民ノ全弊ナリ此兩主ノ權タル其神聖犯ス可ラサルニ至テハ一ナリ豈輕重アラシヤ  
想像ノ名譽ヲ博セントシテ他ノ要求ヲ満足セシムル為ニ夫ノ記録セル條約ノ条項ヲ擴メントスルハ私人ガ之レヲ為スヨリ

政府ガ之レヲ為ス時ハ更ニ一層非難ヲ強ムル者ナリ夫レ公債  
證書所有ノ人ノ惠マントスルノ説ハ此恩惠ヲ與フルニヨリ外視  
ノ虚譽ヲ博セント冀望スル人が拊フノ恩惠ニアラスシテ後代  
人民ノ損害ニ因テ填補セラルベキ者ナリ此ノ如キハ現時ノ少  
人数ガ己レヲ利益スルノ證昏ヲ造リテ他ニ質入ナク其証昏ノ  
為メニ後ノ多人數ガ損害ヲ被ルノ仕方ト謂フ可シ私人ガ引受  
タル負債ハ其自身之ヲ負擔スルカ若クハ自己現在ノ財産ニ負  
擔セシムル者ナリト雖國民一般ニ引受タル負債ハ迄テ將來無  
究ノ負擔トナルベシ後代人民ノ勞力ヲ質入シ之ヲ以テ現在所  
要ノ貨幣ニ鑄造スルハ如何ニ思考スルモ疑ハシキ推利ナリ現  
今ノ人民ハ後代ノ人民ヲ羈束スル能ハズ如何ナル公債モ之ヲ  
為シタル時代ノ人民必ズ償還スベシトノ言ハ近日ニ至ル迄米  
國政論ノ定説ナリキ如何ナル場合ニセヨ後代ノ人民ニ必然ノ

利益ヲ確保スルニアラサルヨリハ之レニ負擔ヲ遺スノ企ヲ為  
ス可ラス唯名譽ノ浮想ヲ満足スルガ為メニ此ノ如キ負擔ヲ増  
加スルノ舉ヲ遂テ可ラザルハ道義上ヨリスルモ法律上ヨリス  
ルモ確然拔ク可ラサルノ真説ナリ  
合衆國政府ハ百端紛起スルノ事情ニ對シ又金銀兩貨ノ關係價  
格ニ差異ヲ生ス可キ諸外國政府ノ宝金屬指スニ関涉スル法  
制ニ對シテ防守ス可キ堡寨トシテ金銀兩貨ノ中孰レヲ用ユル  
モ國債ヲ償還スルニ差支ナキノ撰取權ヲ保有シタリ此撰取權  
ハ常ニ大切ナル者ニシテ金銀ノ差異ヲ生スル時ハ一階ノ要用  
ヲ為セリ合衆國ハ常ニ此權ヲ使用シ之ヲ使用スルノ權利ト義  
務アルトハ我政府ノ建設ヨリ今日ニ至ル迄常ニ明瞭ニシテ清  
長ナキ者ナリ夫ノ銀貨ノ本位ヲ廢止シ之レニヨリ金價ニ對シ  
銀價ヲ低落セシメタルハ勢力アリテ國執セル債主ノ威權ニヨ

ルテ然ラシメタルナリ人民ノ大部ニ諸國ノ債主モ之レニ對  
シテ異論アリタリキ現今ニ於テ政府ヨリ銀貨ヲ以テ公債ヲ償  
還スルモ債主ノ損失ニアラズ万一損失アリトノ言ヲシテ眞ナ  
ラシムルトモ是レ其自家が營求シテ行ヒタル事業（按）勞カアリ  
テ國執セリ  
債主が主張シテ銀貨本位ヲ廢シヨリ生ジタル自然（按）結果ナレ  
其債主が主張セシメタルヲ云フ  
他ノ愛國モ受ク可ラズ又自ラ苦情ヲ鳴ラヌ可カレナリ夫  
レ合衆國ノ公債証券ヲ有スル者ハ歐洲諸國ノ中ニ就テ蓋シ日  
耳曼ヲ以テ最モ多シトス而シテ日耳曼國ハ千八百七十一年迄  
軍ニ銀貨本位ヲ用ヒタリ是年ニ於テ其本位ヲ廢シ金貨本位ヲ  
用ヒタルハ西金屬ノ間ニ差異ヲ起シタル近因ク重モナル者ト  
ス日耳曼帝國ノ臣民タル者其自國ノ政府ガ為シタル処置ノ為  
ニ依落シタルノ銀貨ヲ以テ合衆國ヨリ償還セラレタリトテ  
決シテ苦情ヲ鳴スノ理ナシ

ア  
ロ

私人ニセヨ又ハ他政府ニ屬スル代理員ニセヨ或ル定價ヲ以テ  
合衆國ノ公債証券ヲ購買スルノ約條ヲ為シ其私人ヤ代理員ノ  
利益ト手数料ハ再ヒ之ヲ賣ル時ノ價格次第ニ屬スル者アラシ  
ニ其私人代理員若シ我法律ト公債証券ノ文面ニ定メタル証  
條目意味ヲ用テ約スルコトアリトモ合衆國ハ此ノ如キ約條ニ  
向テ責任ヲ負フコト無シ是ノ事ハ全ク彼オト其對手トノ間ノ件  
ニ屬セリ  
右ニ云フ如キ條約ヲ為ス者ノ為メニ計ルニ條約兩主ノ安全ナ  
ル処分ハ唯公債証券面ニ掲ル明文ニ拠リ又其証券ニ効力ヲ與  
フル所ノ法律ニ準ジテ為スニ外ナラス  
戰爭ノ急時ニ際シテ條約ヲ為シタル大額ノ國債ハ大抵非常ナ  
ル條款ヲ以テスルヲ常トス而シテ戰爭已ムノ後ニ及シテ其非  
常ナル度ヲ下シテ更ニ適當ナル者ニ改メントスルノ情起ルナ



リ政府ヲシテ此念ヲ生ゼシムルハ其公債証券所有者ガ之ヲ約  
束シタルヨリ多クノ歲月ヲ経ル後ニ及ビ立法権ヲ握シ或ハ  
他ノ手段ヲ以テ初メ約束シタル條款ヨリ一層利益アル新條款  
ヲ獲ント企ル時ニ於テ甚シトス故ニ債主ハ此ノ如キ企ヲ為サ  
ズ唯前約ヲ固守シテ神聖ノ者ト為スヲ最上ノ良策ナリトス若  
シ前約ニ於テ得ベキ者ヨリ多キヲ求ントスレハ却テ其得ベキ  
者ノ一部分ヲ損失スルナリ

千八百七十年七月十四日ノ法令ハ合衆國政府ヲシテ金銀ノ中  
孰レヲ撰取スルトモ該法令ニ拠テ発行セル公債証券ヲ償還ス  
ルハ弗償ヲ以テス可キヲ證シタリ又金ヲ以テ鑄造セル弗償ハ  
各弗二十五グレインハノ重量ヲ有シ其十分ノ九ハ純金タルベ  
ク銀ヲ以テ鑄造セル弗償ハ各弗四百十二グレイン半ノ重量ヲ  
有シ其十分ノ九ハ純銀タルベキヲ證シタリ又此ノ償還ヲ為ス

也

ニ此ニ記シタル弗償ヲ除キ他ノ異種ノ弗償ヲ用ユ可ラザルベ  
キヲ證シタリ然リト雖此法令ハ合衆國ノ政府ヲ羈束シ常ニ此  
種ノ金銀弗償貨幣トシ用ヒシムルニアラズ又之ヲ用ヒシムル  
能ワズ該法令ハ合衆國ノ貨幣ハ何種ノ者ヲ用ユルニ關セズ前  
ニ記載セシ弗種ノ各ヲ撰取シテ回債ヲ償還ス可キ旨ヲ以テ政  
府ヲ羈束シタル迄ナリ夫レ通貨ハ如何ナル者ヲ用ユルノ問題  
ハ我國家ノ問題ニシテ常ニ合衆國ノ主權之ヲ宰ス可キノ限内  
ニ在リ此權ニ關シテ我政府ハ決シテ未未ヲ羈束セラレシト  
ナク又羈束セシムル能ワズ

合衆國政府ハ銀貨ノ本位ヲ廢ス可ク又金貨ノ本位ヲ廢ス可ク  
以テ紙幣ノ流通ヲ保シ之ヲ増スヲ得此舉ヲ行フ時其影響ハ  
兩金屬ノ價格ヲ低落セシム可シ何ントナレバ我國ニ於テ兩金  
屬ヲ通貨トシ用ユルノ要求ヲ減ジ其他國ノ或ハ之レニ倣フベ

キ前記トナレバナリ我國ニ於テ金貨トシテ用ユル為メニ多額ノ  
金ヲ要求スレハ金ノ價格ヲ騰貴セシメ隨テ金ヲ以テ償還ス可  
キ負債ニ就キ政府ノ負擔ヲ重クスルガ如ク之レニ反對シテ我  
國ニ於テ金銀ヲ不用ナラシムルハ其價格ヲ低落シ隨テ金銀貨  
ヲ以テ償還ス可キ國債ノ負擔ヲ減セントス合衆國政府ハ其債  
主ニ對シテ如何ナル人ニ對スルモ金銀ヲ我通貨トセザル可ラ  
ザルノ義務ヲ負ハス然ルニ金銀ノ本位ヲ廢スル後ト雖千八百  
七十年七月十四日ノ法令ニ於テ發行シタル公債證書ノ條約ヲ  
履行スル為メニハ特別ニ金銀貨ヲ鑄造スルノ義務ニ至ラハ依  
然トシテ政府ノ負フ所タリ抑特別ノ目的ヲ以テ貨幣ヲ鑄造ス  
ルハ補助銀貨及口貿易幣ニ於テ其例ヲ見ル而シテ銀貨本位ヲ  
復ス可キノ議ハ千八百七十年ノ法令ニ於テ發行シタル公債証  
書ヲ我政府が貨幣ニテ償還スルニ金銀各貨ヲ換ムヲ得ルノ權

七二

利義務トモ關涉ヲ有セズ但此公債証書所有人ノ利益ニ直チ  
ニ感觸スルノミ我國ニ於テ銀貨本位ヲ復スル時ハ銀貨ノ用ヲ  
大ニシテ隨テ其價格ヲ騰貴セシメントス是レ公債証書所有人  
ニ取リテ大ニ緊要ノ事ト謂ハザル可ラヌ何ントナレハ該証書  
ハ其約束條款ニ載ル如ク合衆國政府ノ隨意ヲ以テ金銀各貨ヲ  
換取シテ償還スルヲ得ル者ナレバナリ故ニ該証書ノ所有人ハ  
理トシテ銀貨ノ本位ヲ復スルノ議ニ抗ス可キ者ニアラズ  
又仮令銀貨ノ本位ヲ復セザルニセヨ我合衆國政府ハ國民ガ舉  
テ利害ヲ附托シタル信任ニ背キ銀貨ヲ以テ國債ヲ償還スルヲ  
得ルノ權利ヲ棄テザル可ク之ヲ行フヲ怠ラザルベシ又全ク他  
ノ目的ヲ以テセズ唯此目的ノ為メニ銀貨ヲ鑄造スルノ許可ヲ  
與ヘ之ヲ行ワシメザルヲ無ルベシ  
若シ互ニ其地ヲ換ヘシメ政府ヲ公債証書所有ノ位ニ置クニ

レヨ回債ヲ償還スベキ兩貨ノ孰レヲモ負債者ノ諸願ニ應シテ  
鑄造スルヲ拒ミ許サザルニ於テハ是レ條約ノ文字ト精神ヲ破  
リ名譽ヲ証シタル義務ヲ欠ク者ト謂ワザル可ラズ何レトナレ  
バ正道ニ適セシムル為メニ一規則ハ負債主ト債主トノ位置  
ニ附テ異ナラザレハナリ  
千八百七十年七月十四日ノ法令ヲ以テ合衆國政府ヲ公債証  
ノ購買者ニ約シタルハ通債ヲ以テ償還スルノ義ニアラス但當  
時ノ定位價格ノ貨幣ヲ以テスルノ意ナリ當時ノ定位價格ノ貨  
幣トハ其時代造幣局ニテ鑄造シタル所ノ金銀并ノ重量割合ヲ  
指シテ云フ者ナリ然ルニ此條約ニ於テ負債主債主共ニ金屬將  
未ノ高低ノ危サヲ賭シタリキ何ゾヤ合衆國政府ハ金屬騰貴ト  
低落トニ對シテ保塞ヲ設ケザレバナリ合衆國政府ノ條約ヲ認  
メテ當時ノ市價即チ貿易通債ニ隨テ貨幣ヲ償還スルヲ約シタ

二三

リト想定スルハ最モ愚呆ノ考案ト謂フベシ合衆國政府ハ持品  
某々ノ重量割合ノヲ以テ償還スルト言ヒタリ未夕特價公債証  
貨幣ト云フ義行セル時價ノ金ヲ以テスト言ハサルナリ并銀ノ市價即チ貿易  
銀ト云フ時價ノ金ヲ以テスト言ハサルナリ并銀ノ市價即チ貿易  
通債ニ如何ナル變化アルヲ裁決スルノ審判廳ヲラザルナリ慎  
重ナル政府慎重ナル私人ニシテ此ノ如キ曖昧不定ナル約束ヲ  
為ス者アラシヤ慎重ナル債主ニシテ此ノ如キ約束ヲ諾スル者  
アラシヤ  
千八百七十年七月十四日ノ法令ニ於テ公債証券ヲ發行スルニ  
就キ合衆國政府ハ兩金屬價格ノ騰貴スル危サヲ犯シテ之ヲ為  
セリ此公債証券ヲ購受シタル債主ハ之レニ反シテ兩金屬價格  
ノ低落スルノ危サヲ犯シタリ而シテ鑛坑ニ富ム諸國ニ戰爭ア  
リ政論ノ紛擾アリテ金銀ノ生産ヲ減少スル千八百〇九年ト千  
八百四十八年トノ時勢ノ如クナルカ又他ノ原因ヨリ減少スル

カ或ハ是迄金銀ヲ通貨トセザリシ諸國ノ之ヲ貨幣ニ用ユルヨ  
リ是レガ為メニ其要求ヲ増加スルカ或ハ好尚ノ気風變化スル  
為メニ金銀ヲ工藝ニ用ユルヲ増加スルカ是ボノ事情ハ皆合衆  
國政府ノ運ニ對シテ不利ノ結果ヲ共フル者ナリ是ボノ事情ハ  
單行シ若クハ連続相結シテ金銀ノ價格ヲ著ルシク騰貴セシメ  
ントス又公債証券所有者ノ身ニ取リテハ金銀鑛坑ヲ新夕ニ登  
見レ若クハ旧来ノ鑛坑ヲ開鑿スル一層ノ激サヲ加フルニヨリ  
是レガ為メニ各金屬若クハ兩金屬ノ増産ヲ致スカ貿易諸國ガ  
一。金屬若クハ兩金屬ノ本位ヲ察スルカ或ハ大國ニ於テ紙幣ヲ  
貨幣ニ交換スルヲ停止シ是レガ為メニ多額ノ金銀ヲ浮遊セ  
シムルカ或ハ世界ノ風儀一変シテ貨幣トシ用ユルノ外金銀ヲ  
他ノ目的ニ用ユルノ額ヲ減スルカ此ボノ事情ニ関スル危カチ  
犯シタリ此ボノ事情ハ單行シ若クハ連続相結シテ金銀ノ價格

バ  
バ

ヲ著ルシク低落セシムル者ナリ  
偶然ノ機會ニアラスシテ頗ル牢確ナル事實アリテ合衆國政府  
ノ不利トナル可キ者存セリ此ノ事實トハ世界ノ人口富殖貿易  
ノ盛隆ニ赴クガ為メニ益々多額ノ貨幣ヲ要スルヲニシテ鑛坑  
ノ増額ヲ生スルハ甚タ期シ難キ者ナレバナリ  
危ナキヲ犯スハ負債主債主相互ノ者ナリキ今ヨリ右モ亦當サニ  
然ルベシ彼ノ許多ノ事情ノ一二件若クハ總件差起リテ金銀ノ  
價格ヲ騰貴セシメ隨テ合衆國政府ガ債主ニ償還スルノ負擔ヲ  
重クセバ合衆國政府ハ公債証券所有者ニ向テ此騰貴ニ應ジ條  
約ノ割合ヲ減スルヲ請フヲアリト反想シ得ル乎又債主此請求  
ニ應ジテ之ヲ諾ス可レト反想シ得ル乎債主ハ世態事情ハ交換  
ニ拘ラス必ズ利アリテ損ナカルベキ條約ヲ為シタル乎合衆國  
政府ハ條約ノ義務ヲ負ヒ之レニ背クノ債主ヲ負フモ其條約ヨ

リ起ル一切ノ利益ハ之レヲ享得ス可ラザル乎此ボノ諸疑問ニ  
答フルノ辞唯一アルノミ  
條約ヲ結ビタル事實ト法律トニ於テ一ノ疑ヲ容ル、ナレ政府  
ト其債主トノ間ニ定タル條約ハ世事ノ変更ヨリ兩者ノ孰レヲ  
利益スルヲ含蓄スル者ニシテ其事變ノ何タルニ関セズ兩者必  
ズ之ヲ承認セザル可ラズ政府若シ法律ト條約トノ許サザル所  
ノ利ヲ要求セバ是レ自ラ尊重ヲ辱レムルナリ又当然享受ス可  
キ者ヨリ少キヲ取ルハ政府一國ノ大利害ヲ附托セラレタル信  
任ヲ破リ正理ヲ犯スナリ政府ハ主人ニアラザルナリ他ノ代理  
者ナリ政府ハ國民ノ受托者ナリ其附托セラレタル國事ノ処置  
ニ至テハ法律ニ依リテ方向ヲ見ルベク針路ヲ定ムムベシ決シ  
テ其感觸ノ情ニ従フ可ラザルナリ  
今銀貨ヲ以テ國債ヲ償還スルコトアルモ債主ハ法律若クハ事實

四五

ニ就テ苦情ヲ鳴スベキ余理ヲ有セザルベシ世事ノ變換ハ皆合  
衆國政府ノ為メニ利アラガリキ未タ嘗テ債主ノ不利トナル者  
ヲ見ズ唯金銀兩貨ノ價格騰貴シタリシノミナラズ千八百七十  
年ノ金銀ノ關係價ヲ以テ千八百七十七年ニ比スレハ物價ニ對  
スル現今ノ銀價ハ千八百七十年ニ於テ物價ニ對スル金價ヨリ  
騰貴セルヲ見ル然ニバ今日銀ヲ以テ國債ヲ償還スルハ債主ヲ  
シテ該法律ト該條約ガ許ス所ヲ取ラシムルノミナラス却テ正  
理ニ於テ要求スル高ヨリ多キヲ受ケシムルニ當レリ  
人又或ハ言フ千八百七十年ヨリ後ニ發行シタル公債証書ハ金  
貨ヲ以テ償還スベシ何ントナレバ政府其証書ヲ以テ金貨ヲ受  
取リタレハナリト是レ理ノ無キ所ナリ何ゾヤ公債証書ノ約束  
ハ貨幣ノ價格、貨幣ノ種類若クハ之ヲ發行セシ時受取リタル者  
ノ性質ニ準拠ス可キ者ニアラス唯其公債証書ノ條款ニ拠ル可

クシテ其賣レタル價額ニ準ズ可ラズ一<sup>百</sup>の五<sup>十</sup>弗ニ賣レタル証  
昏モ五十<sup>十</sup>弗ニ賣レタル同証昏ト異ナル性質ヲ有セタル金貨ト  
交換シテ賣リタル者モ銀貨若クハ銅<sup>一</sup>リ<sup>一</sup>ン<sup>一</sup>ベツ<sup>キ</sup>表面<sup>一</sup>青<sup>一</sup>色<sup>一</sup>  
交換シタル同証昏ト異ナルナク又物品ノ供給若クハ勞<sup>一</sup>役<sup>一</sup>ノ給  
料ト交換シタル同証昏ト異ナル無シ唯約束ニ準ズベク事情ニ  
於ル可ラズ若シ公債証昏ト交換シタル物ガ<sup>按</sup>其<sup>按</sup>債<sup>按</sup>帶<sup>按</sup>ノ<sup>按</sup>其<sup>按</sup>約<sup>按</sup>束<sup>按</sup>  
セシ事實ヲ決スルトノ説ヲシテ真ナラシメバ其証昏面ニ載ス  
ル所ニ超過シタル價格ヲ有スルノ合衆國公債証昏所有人ハ其  
現ニ右有スルヨリ變カニ劣リタル利益ヲ受ルナルベシ

